特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

2020 年度 事業報告

Think globally, act locally and change personally!

本部事務所
790-0803　愛媛県松山市東雲町 5－6
TEL：(089)993－6271
FAX：(089)993－6227
E-mail：wakuwaku@egn.or.jp

【EGN】https://www.egn.or.jp/
【武器アート】http://mozambique-art.com/
【四国 EPO】https://4epo.jp/
【四国 ESD センター】https://shikoku.esdcenter.jp/

高松事務所 (四国 EPO・四国 ESD センター)
香川県高松市寿町 2 丁目 1-1
高松第一生命ビル新館 3 階
TEL: 087-816-2232

徳島サテライトデスク (四国 EPO)
徳島市西新浜町 2 丁目 3-102
エコみらいとくしま内
TEL：080-4035-4593

高知サテライトデスク (四国 EPO)
高知市旭町三丁目 115 番地
こうち男女共同参画センター3F
TEL：080-4998-4592

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

【ビジョン】

あらゆる人々が、人として平和な日々をおくることができる持続可能な社会を実現すること

【ミッション】

1. 人として対等な立場で支援を必要とする人々の社会的・経済的自立を援助するため市民参加による国際協力活動を実践すること。

2. 国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため地球市民教育の普及に取り組むこと。

3. わたしたちのビジョンを追求するため地域・国内・海外の市民や諸団体とのネットワークを構築すること。

目　次

■総括 02

Ⅰ．国際協力事業

1．モザンビーク海外支援事業：モザンビークにおける活動 04
2．モザンビーク海外支援事業：国内における活動 08
3．フェアトレード事業：フェアトレード普及啓発 12

Ⅱ．環境保全事業

1．環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営等事業 13
2．日本 NPO センター・グリーンギフト支援事業 24
3．環境再生保全機構・地球環境基金助成金説明会等の開催 24

Ⅲ．教育・ネットワーク事業

1．四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）関係業務 26
2．外務省ＮＧＯ相談員業務 32
3．講師派遣および持続可能な開発のための教育（ESD）普及・促進 34
4．減災社会づくり・多文化共生事業（HS） 40
5．西日本豪雨災害・愛媛県での支援活動、三者連携推進業務 42
6．協働オフィス運営と中間支援機能強化について 42

Ⅳ．管理運営等

1．組織運営 43
2．決算報告 44
3．監査報告 50

総　括

■はじめに

2021 年 3 月 11 日、日本だけではない、世界を震撼とさせた「東日本大震災」から 10 年という節目を迎えた。世界中から最も国際協力支援を受けたのが日本だった年である。そして、2020 年度は、世界中のあらゆる人々が変異型を含む「新型コロナウイルス感染症拡大」の脅威に直面し、「with コロナ」対応に奔走した 1 年となった。

あらゆる場面で、人と人の対面によるコミュニケーションが激減し、オンラインやハイブリッドという新たなツール・機会を駆使して「何を成し得ることができるか」「何が大切か」を考えさせられ、「新たな価値の創造」に向けてチャレンジし続けた 1 年でもあった。コロナ禍で経営が破綻したり、自死が増えたり、先行きがあまりにも不透明な時代に、大事な家族や友人を亡くした人々の悲しみ、今も苦しんでいる人々の痛み、そして、この感染症に立ち向かう医療関係者皆様の献身的な努力への感謝を忘れることはできない。

このような状況下でありながら、2020 年度、EGN ができたこと、できなかったことや課題を振り返りたい。「今」という時代を俯瞰しつつ「未来」を見据え、四国をフィールドに国際・環境・教育分野のヨコのネットワーク構築に努めてきた内容・役割について、さらには SDGs 達成への貢献と照らし合わせ、改めて考え、行動につないでいかなければならないと思う。

■【国際協力】モザンビーク支援事業・フェアトレード等

モザンビークには、1 年以上訪問できず、現地の様子をリアルに確認できない状況が続いた。しかし、宗像財団の助成金を活用し、今年度、大きく 2 つの進展があった。

1つ目は、クリニックの雨漏りの修繕を完了させ、雨水タンクを設置できたことである。クリニックは、2003 年に建設されて以来、年を追うごとにさまざまな不具合が生じていたが、今回、その状況を改善し、次へのステップである公民館・学校・クリニックなど、「公共の場づくり・仕組みづくり」へと向かう道筋が見えてきた。

2 つ目は、シニャングァニーネ村で「Tiyiselanni(ティセラーニ)」という協会を立ち上げる具体的な組織基盤整備が進んだこと、鍬やナタを手に、村人たちが自ら木を伐り、土地を耕して開墾して農地整備を行い、コミュニティファームが形になってきたことである。この活動には多くの村人たちが自主的に参加しており「自分たちで切り拓いていく」という姿勢や熱意が伝わってきた。村を訪れたモアンバ郡政府関係者も、この取り組みを高く評価してくれている。こうした活動を支えるモザンビークキリスト教評議会（CCM）のジッタ氏、モリンガの生育・商品化に向けて協力してくれている専門家のジュディッティ氏の協力に感謝したい。

他方、困難にも直面した。2013 年に愛媛トヨタ自動車株式会社の寄贈によりモザンビークに送った車両の故障である。悪路での使用、純正部品の不足、不良中古品の代替使用、修理技術の未熟さなどが原因でほぼ限界にしている。次年度以降、どう対処するか検討したい。

■【環境保全】四国 EPO 事業・地域循環共生圏構築（＝「ローカル SDGs 四国」発足）等

四国 EPO 事業においても、今年度、さまざまな事業企画が、リアルからオンラインおよびハイブリッド対応に代わり、その環境整備とノウハウの構築に多くの時間・労力を割かなければならなかった。しかし、四国 4 県のサテライト・ネットワークは、コロナ禍でも効果的に機能し、災害時の備えにつながることを確信することができた。

情報発信については、社会活動が制限される中、環境問題への関心喚起や自然との接点を持ってもらえるよう、「しこく＊いきもの＊NOW」などの企画立案や動画コンテンツ作成等へ参画するなど、新たな試みを行うとともに、その継続的な発信に努めた。今後は、Web 会議システム等の積極的な活用や連携の輪を広げるための情報発信方法の検討による、取り組みの更なる質的向上を目指したい。

相談対応については、コロナ禍でありながらも、SDGs やプラスチックごみ、食品ロス削減など、具体的な環境課題に対する問い合わせや相談、講演依頼、委員会への出席依頼や助言を行う機会が多かった。EGN が大切にしている「持続可能性」や「協働」への理解が広がり、社会の変化が感じられる 1 年となった。

また、今年度は、全国 8 か所にある EPO ネットワークとしての価値を発信する冊子の作成に取り組んだ。各 EPO が地域で関わった事業ピックアップし、他の EPO スタッフがインタビューする形式でとりまとめたもので、四国からは「うどんまるごと循環コンソーシアム」を紹介した。現在に至るまでの過程をふりかえり、行政・自治体・団体等からの相談対応やコーディネートの内容等を整理しつつ、これまでの活動を可視化することができた。

四国 EPO の評価委員会からは、新型コロナ禍における会議やイベント開催方法の変更が迫られる中、地域循環共生圏事業を推進するため、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所と連携し、地域の金融機関や経

済団体、国の機関等とのパートナーシップ形成に努め、これまで「地域循環共生圏プラットフォーム」構築として展開してきた事業を「ローカル SDGs 四国（通称：LS 四国）」の設立へと発展させることができた点等について高い評価を得ることができた。

LS 四国は、そのビジョンに「いのち輝く、青い国・四国を次世代へ」を掲げ、四国にある素晴らしい自然や文化、人のぬくもりなどの資源を再認識しながら活用し次世代に残していきたい、そして、四国で暮らす一人ひとりがもつ力を発揮できる活気のある社会にしたい、という願いが込められている。

また、LS 四国の企画・運営委員会は、四国の各県、中小企業家同友会、JICA 四国、生物多様性ネットワーク等のメンバーで構成されており、SDGs 達成に向けて実践者が集う分科会は、テーマごとに自立的に事業展開しながら活動を広げていくスタイルで運営される。現在、①四国 ESD チーム、②地域エネルギーという 2 つの分科会が立ち上がっており、③多文化共生型減災社会づくりのチームは、EGNが間もなく JICA 四国とともに立ち上げていく予定となっている。（本分科会の事業に位置付けしているのは、2020 年度採択され 2021 年度開始する JICA「NGO 等提案型事業」である。これまでの西日本豪雨災害での支援経験と多文化共生をつなぐネットワーク形成の取り組みとして次年度の新たなチャレンジへつなげたい。）

これら分科会活動を加速化するために、LS 四国は（1）情報収集・共有・発信、（2）つなぎ支援、(3)ローカル SDGs 人材の育成に取り組んでいく。EGNは、LS四国の事務局を担う環境省四国事務所と四国EPOスタッフとともに一丸となって持続可能な四国の未来を切り拓いていく。

■【教育・ネットワーク】四国 ESD センター事業・外務省 NGO 相談員事業・講師派遣・災害支援等

四国ESD センター事業では、「ユース世代等取組交流会」や「地域 ESD 拠点交流会」を通じて、お互いを知る機会が創出でき、「ESD 全国フォーラム」では平野薬局の協力を得て、四国の事例を発信することができた。

また、日本 ESD 学会と愛媛大学 ESD ラボの共催による「四国 ESD フォーラム（＝日本 ESD 学会第 2 回四国地方研究会）」の開催準備段階から関係者間の連携が進み、四国全体の ESD 活動をつなぐ機会の創出につながった。

また、今年度は教材開発に関わる機会が多かった。①松山市 SDGs 冊子（国際協力・国際理解推進実行委員会）、②中学生用英語映像資料教材（開隆堂）、③中学生用アクティブラーニング教材・モザンビーク（JICA）、④SDGs 普及啓発映像(四国 EPO 出演・香川県)の他、聖心女子大学が企画し、当団体も武器アート提供やインタビュー・ワークショップで協力した映像資料も一般公開に向けてあと一歩の段階まで進めることが出来た。

そして、SDGs を推進していく役割が明確となった「ESD for 2030」の関係者による意見交換も活発だった。プラスチックごみや食品ロス削減、気候変動等、世界と国内の課題認識に関するギャップをどう埋めるかは課題といえるが、SDGs や ESD を基軸とした四国内でのネットワーク形成と普及啓発は着実に進んでおり、講師派遣は年間 109 件、約 4,100 人を対象に実施できた。

外務省 NGO 相談員事業は、17 年目を迎えた。年間合計 955 件の相談対応を行い、9 件の出張サービスを実施したが、高校生からの相談対応が増えた。SDGs の普及やアクティブラーニングの成果とも考えられる。丁寧な対応に心がけ、ユースリーダー育成につながるよう国際協力活動の重要性を引き続きアピールしていきたい。

全国 15 か所の相談員受託団体とともに、通常年 2 回開催される連絡会の開催や、大きな国際協力イベントの開催はなかったが、外務省・JICA・NGO 相談員の連携による初めてのオンラインを活用したイベント開催があり、新たな連携を模索することができた。

2018 年 7 月の西日本豪雨災害以来、愛媛県南予地域の復興支援会議に関わってきたが、宇和島市で開催される「牛鬼会議」に定期的にオンラインで参加し、NPO 法人えひめリソースセンターとの連携を進めた。2020 年 8 月には、これまで多くの関係者の支援を得て、宇和島市との協働で運営する「宇和島 NPO センター」が立ち上がり、市民活動を支援する基盤が整った。今後もさらなる発展を期待したい。

■おわりに

四国は、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法、2018 年 1 月施行）の資金分配団体の指定を受ける団体がいない空白地域の 2 年目を迎えている。このような状況下、EGN は、市民活動・新たな雇用創出の支援を行う目的で、多くの方々の協力・賛同・支援を得て、本事業への申請という新たなチャレンジを行ったが、あいにく資金分配の経験を有していないことが最大の理由で採択に至らなかった。力不足を感じる結果となったが、2021 年度は、対策を講じて再チャレンジすることとしたい。

最後に、会員・インターン・ボランティア、理事・監事・顧問の皆様、そして、EGN のさまざまな事業を通じて連携・協働を進めてきた関係者の皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げたい。「ありがとうございます！」

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事　竹内　よし子

Ⅰ．国際協力事業

1．モザンビーク海外支援事業：モザンビークにおける活動

1）宗像財団助成事業

2019 年度から一般財団法人宗像協会の助成を受けており、3 年プロジェクトのうち 2020 年度は 2 年目である。昨年度から引き続き「いのちの水プロジェクト」と「女性の収入向上プロジェクト」を行っており、それぞれの活動について、以下のように報告する。

(1)いのちの水プロジェクト

シニャングァニーネ村は、悪路によりアクセスが悪く、外部支援が入りにくい地域である。EGN は、パートナー団体であるモザンビークキリスト教評議会（CCM）の要請を受けて 2006 年からこの地域の支援に携わるようになった経緯を持つ。2020 年度は「小学校」「クリニック」「井戸とソーラーボイラー活用」の 3 つの課題に焦点を当て、課題解決に向けて題解決に向けてそれぞれ取り組んできた。

【上位目標】安全な水の確保、村の「水道組合」の仕組みづくり

事業開始前の課題	2020 年度の実践	今後の課題
■小学校：校舎の雨漏り。教室に窓やドアがない。悪天候時には授業ができない。政府が設置した雨水タンクが壊れている。学校には水がない。トイレの屋根がなく、壁が壊れている。 ■クリニック：屋根材の劣化による雨漏りがひどい。雨どい・雨水タンクがない。 ■井戸・ソーラーボイラー：塩水問題等安全で安定的な水が確保できていない。	■小学校：屋根等施設の維持・保管、メンテナンスの仕組みづくり。手洗い指導含む普及啓発。 ■クリニック：屋根等修繕とその後の定期点検・整備の仕組み、劣化時の対応検討。 ■井戸・ソーラーボイラー：井戸掘削等による水確保検討。	■小学校：手洗い指導開始。教員・保護者による施設や設備の修繕・管理の仕組みづくりとその運用。 ■クリニック：定期点検・整備の仕組みづくりとその運用。ナースとの連携による普及啓発。 ■井戸・ソーラーボイラー：井戸掘削等による水確保と組合の登録や活動の支援。

【2020 年度の活動】

A. 小学校

宗像協会の助成を得て、4 月から 6 月に教室の雨漏り修繕を行うとともに、手洗い用バケツを購入し、学校・クリニック・公民館で手洗い指導を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った。その後、7 月から 12 月は小学校の閉鎖が継続、3 月に小学校の授業が再開した。授業再開に合わせて、エレナ氏やクリミルダ氏を中心に公民館の女性グループが作成したマスクを生徒全員に配布することができた。手洗いタンクの設置に伴い、手洗い指導を行うとともに、教育省から学校宛に手洗いに関するパネルが配布されたことから、トイレに掲示し普及啓発を行った。

ジッタ氏による校舎修繕の確認作業を 1 月に行ったところ、屋根のメンテナンスや手洗い用のタンクと雨水タンクが良好な状態であることを確認した。その際、新たに窓やドアノブの損傷が見つかった。学校のメンテナンスは定期的に行う必要があるが、その仕組みが出来ていないため、今後も引き続き、保護者や関係者向けの普及啓発による理解と仕組みづくりが課題である。あわせて、学校周辺の草引きや清掃活動についても、公民館と連携した仕組みづくりを検討する必要がある。

子どもたちは、修繕中の壁に手跡をつけないなどきれいに学校を修繕するために協力していたことが伺えた。一方で、机が足りないなど教室の備品がまだ十分ではない状況であることを確認した。

▶手洗い用バケツを学校へ運ぶ様子

▶トイレに張り出されたパネル

B. クリニック

クリニックについても修繕に必要や手続きや見積もりを行い、9 月に屋根材等の資材を村へ運搬し作業を開始した。車両の故障と修繕に時間がかかるなどトラブルが発生し、必要な資材を一度に調達・搬入するのが難しい状況となったが、水、セメント、5,000ℓ タンクなどを購入、順次搬入し 12 月中にクリニックの修繕が完了した。その後、1 月にジッタ氏による修繕状況の確認作業が実施され、屋根材の全ての交換や雨漏りの修繕が、完了していることが報告された。修繕確認に同行したモアンバ郡農業普及員のムドゥッセ氏からも適切な修繕への感謝が伝えられた。

また、1 月から 3 月には、新しく赴任したナースへ依頼し公民館での住民向けのセミナーの中で、コロナ対策のためのマスク使用や手洗い指導が実施された。

▶新しいナースがコロナ対策を説明

C. 井戸とソーラーボイラー活用

CCM のジッタ氏を講師として、4 月に適切な水の管理方法について村人たちと意見交換を行った。その後、8 月と 11 月、1 月、3 月と複数回にわたるセミナーを開催し、シニャングァニーネ村で「ティセラーニ（Tiyisselani）組合」を立ち上げていくことについて意見交換・勉強会を開催した。このグループが「組織」として正式な登録を行うことができるようジッタ氏とともにサポートを継続しており、本組織を構成するメンバー候補の間での意見調整を丁寧に行うとともに、今後、水の管理運営やモリンガ等の農作物を育てるコミュニティファームの管理運営を担うことも期待されるため、利権調整を含めた慎重な議論を重ねつつ進めることができた。また、こうした動きをサポートするために、モアンバ郡の農業普及員からの協力も得られるようになり、登録に向けて前進が見られた。

意見交換を進める中で、CCM-TAE と EGN がティセラーニ組合とどのように関わるかの MOU が必要ではないか、関係性の明確化についても議論が必要といった発案もあり、2021 年度中に渡航できれば、組織化について正式な形で整えていく予定である。

4 月から 6 月にインコマティ川の様子と掘削途中の井戸、ソーラーボイラーの現状を確認した。雨季のインコマティ川の氾濫による、道路の冠水と村の孤立は深刻で、村の中で水や食料を確保することが必要不可欠であることを確認した。また、ソーラーボイラーの現状報告と稼働について、兵庫県在住の技術者と意見交換を行った。その際、ソーラークッカー活用についても併せて検討し、ソーラークッカーによる現地の主食であるシマ（トウモロコシ粉）の調理の可能性について実験協力を行うこととした。

11 月にモアンバ郡政府関係者がシニャングァニーネ村を訪問した際は、ソーラーボイラーの活用について説明し関心を持っていることが確認できた。その後、12 月にはソーラーボイラー稼働に必要なソーラーパネル購入について検討し、公民館の屋根に設置する場合の見積りを取った。

▶勉強会に集まった村人たち

▶ソーラーボイラーの視察

▶インコマティ川氾濫の様子

▶3 月（右）のセミナーの様子、ジッタ氏の後ろには、「ティセラーニを組織化すること」といった目標が貼りだされている。

(2)女性の収入向上プロジェクト

シニャングァニーネ村の女性たちは、男尊女卑の風習が根強く残るなか、通常は、水汲み、子育て、食事の用意、畑仕事といった無償の重労働に追われて一生を過ごす女性が大半で、経済的自立を果たすのは難しい状況にある。モザンビークは「初等学校で女児が最終学年まで残れる割合」が 32%と世界第 2 位の低さとなっており、リーダー研修でも女性の参加を促していく必要がある。2020 年度は「カプラナを使った商品開発」「モリンガを使った商品開発」「コミュニティファーム」に焦点を当てて、課題解決に向けてそれぞれ取り組んだ。

【上位目標】雇用の創出、経済循環づくり

事業開始前の課題	2020 年度の実践	今後の課題
■村の女性たち：早婚・早産、男尊女卑の風習による地位の低さ ■家事労働・農業：川までの水汲み、薪拾い、炭火による食事の準備といった家事と育児に加え、自給のための農場も自宅から離れており、機械化もされていないことにより重労働であり、時間の制限を受ける ■雇用：識字率も低く、現金収入のための機会と能力不足が深刻	■ミシンの修理を行い、カプラナを使った商品開発に取り組んだ。また、小学生や村人に向けて刺繍や裁縫の指導を行うなど、女性の学びの場の創出と若手リーダー育成を行った。 ■コミュニティファームでのモリンガ等の農産物の育成と商品加工販売に向けた商品開発を行った。 ■ジュディッティ氏によるモリンガの育て方や活用法についての研修を行った。 ■ネットショップ販売による販路の拡大やカプラナへの刺繍の教材化を進めた。	■カプラナなどを使った商品開発と制作および質の向上。 ■モリンガを使った商品開発とコミュニティファームの管理、村人の栄養改善。 ■地位向上と体制整備のためのグループ化の正式な登録。 ■モザンビーク国内で売れる布製品・手工芸品の開発と日本におけるフェアトレード応援商品の販売先の充実

【2020 年度の活動】

A. カプラナを使った商品開発

村の女性リーダーであるエレナ氏とクリミルダ氏が中心となって、若手女性や新型コロナの影響で学校が閉鎖され学びの機会を失った小学生に、ミシンの使い方や刺繍・縫製などを教え、カプラナを使った ESD 刺繍、マイバッグやボトルキャップを使った鍋敷き、マスクの制作に取り組んだ。

このうちマスクは、セミナー参加者へ配布するだけでなく、3 月下旬の小学校再開時には村の児童に配布するなど、新型コロナウイルス感染防止対策に役立てた。現地から定期的に送付される画像には、若手女性を中心に縫製等に熱心に取り組む様子が見られ、カプラナ布等を使って「何かを作って売ろう」という意識や可能性を引き出すことにつながっていることが確認できた。

また、現物の ESD 刺繍入りのカプラナは、松山市平和資料展で展示し、中学校の英語教材のなかで取り上げられるフェアトレードの事例案とすることを出版社と検討するとともに、ESD の刺繍入りカプラナの画像を当団体が扱うフェアトレードコーヒーのラベルに使用し、四国フェアトレードネットワーク（4FT）マーク認証手続きを行い PR の準備を進めた。

あわせて、当団体の販売・PR サイトである wakuwaku-café の更新を行うとともに、モザンビークの刺繍入りカプラナや、ESD/SDGs 刺繍入りカプラナバッグを販売できる準備を整えた。モザンビークデー（10 月 4 日）等のイベントで PR した。この他にも、モザンビークの女性たちの職業訓練・仕事づくりとして始めた ESD 刺繍に関して、えひめ消費者教育研究会からは「教材が熟する」という表現で評価を得ることができた。

いずれにしても、カプラナ布は、モザンビーク女性にとって大事なもの、文化的に重要かつ意味があるものであり、カラフルなカプラナ布を活用した商品開発・雇用創出が必要であることをあらためて確認できた。

▶マスクを作っている様子

▶裁縫を学ぶ子どもたち

B. モリンガを使った商品開発

昨年度から栽培を継続しているモリンガは、育苗、植樹、水やり、草取りなど行の管理を継続している。第 1 回目となるモリンガの葉の収穫は 5 月に行い、乾燥させたものを粉末状にし、8 月、11 月のモリンガの専門家であるジュディッティ氏による研修での指導をもとに商品開発の準備を進めた。

さらにこの研修のフォローアップとして 9 月に土壌調査・確認を実施し、生育状況の改善のために土壌改良が必要であることを確認し、11 月の研修につなげた。11 月の研修時には、モアンバ郡農業省と連絡調整を行い、土壌改良普及員の視察と意見交換が実現した。今後、土壌改良を継続するためには、2019 年に愛媛で研修を受けたフェルナンド氏の堆肥づくりの実践が有効であり、帰国後、初めてチャレンジした「堆肥がついに完成した」との報告もあり、引き続き、除草した草を日干しにして堆肥づくりを推進する必要がある。

一方、収穫したモリンガの商品化についても、ジュディッティ氏の研修を通じて進めた。粉末にしたモリンガの一部は、調理法等の研修とあわせ、参加した村人に配布され、各家庭の栄養改善に役立てられた。研修では、モリンガを使った料理法に留まらず、栄養豊富なオレンジ色のサツマイモやゴマの紹介も行われた。このオレンジ色のサツマイモは、シニャングァニーネ村付近の地域が栽培に適しているとのことで、ジュディッティ氏から、モリンガと同様積極的に導入し、農業開発を進めていくよう村人への指導・提案があり、村人たちが結束して取り組んでいく意識を醸成することができた。

▶畑を耕している様子

▶モリンガを粉砕している様子

C. コミュニティファーム

2019 年 2 月に購入し公民館で保管し共同管理することとなったナタ・クワ・長靴・軍手などを活用し、村の人が自主的に集まり、コミュニティファームとして決めた土地の開墾が始まった。作物を植える場合、水やりのための工夫が必要になると思われるが、渡航が難しい状況にあるため、ジッタ氏にコーディネートを依頼し、コミュニティファームによる仕事づくり、シェアする方法について、勉強会を開催した。

また、8 月に行われたジュディッティ氏による研修のフォローアップとして、モアンバ郡農業省の土地改良普及員であるマシンベ氏が指導に当たり、持続可能な農業開発・食品加工等の取り組みが前進した。同郡農業普及員のマデゥッセ氏からは、種の無償配布、農業技術の指導が行われ、定期的な訪問のアレンジについては、話し合い必要であるが、無償配布されたトウモロコシは、順調に育っていることが確認され、村人たちの参加意欲を高めることに貢献している。

11 月にはモアンバ郡政府関係者がシニャングァニーネ村を訪問し、コミュニティファームの視察と意見交換を行い、「Tiyisselani（ティセラーニ）」組織化に必要な手続きに協力することを約束してくれるなど、組織化の取り組みの前進が見られた。コミュニティファームの村人たちの参加促進のため、意欲を高めていくことが必要であり、公民館で開かれるセミナーで情報共有することが重要であることが確認された。

いずれにしてもジュディッティ氏による研修・指導により、村人たちは具体的に進むべき「農業開発の道」をコミュニティファームとともに開墾しており、新たな村人たちも迎えながら、コミュニティの結束を強めることに役立っている。一方、当初から参加している村人との温度差は、組織化を進めるにあたって影響を与える可能性も高いため、丁寧な調整は引き続き、必要である。

モアンバ郡関係者からは、公民館が他に類を見ない建物であり「ホワイトハウス！」と呼ぶに相応しい、ペットボトルのリサイクル活動をモアンバ郡に広げたい、シニャングァニーネ村のコミュニティ開発は、革新的な農村開発のアプローチであり、横展開が重要である等の評価・コメントを得た。

▶畑を開拓している様子

▶モリンガの苗を植えている様子

▶畑を開拓している様子

2）銃を鍬へプロジェクト（TAE）

■Tiyisselani（ティセラーニ）組合について

Tiyisselani 組合とは、シニャングァニーネ村の人たちの中で結成された農業組合である。EGN が建設に関わった公民館 CLC（Community Learning Center）にて農業セミナー開催のほか、共同農作地であるコミュニティファームの管理などを行っている。CCM の Zita さんや村の人たちの間で自主的に形成・運営されており、モアンバ郡の行政機関側にも働きかけ、団体登録へ向けた動きや無償での種の配布といった協力を得ている。EGN ではこれまでシニャングァニーネ村の人々へ様々な支援を行ってきたが、村人たちで組織を立ち上げ、運営に向けて自主的に働きかけているのは初めてのことである。彼らの自立的な動きはとても良い傾向であり、EGN としても今後見守っていく形をとりたい。

3）モザンビークサイクロン災害支援

2019 年 3 月にサイクロン「イダイ」がモザンビーク中部ソファラ州ベイラを直撃した。死傷者は 2,000 人以上、住宅損傷は約 24 万戸にものぼり、多くの人が家を失うこととなった。これに対し、CCM では被災者支援を行っており、EGN としても CCM ベイラへ復興資金の支援を行った。

TOPIC

モザンビークのコロナの状況

モザンビークでも新型コロナウイルスの影響が出ている。年末年始にかけては新規感染者数が急増しており、1 日に 1,000 人に上る日も出た。モザンビークでは医療体制が整っておらず、この時期の首都マプト市内のほとんどの病院が満床となっていた。

また、教育機関では 2020 年 3 月 23 日から新型コロナウイルス感染拡大を懸念して、すべての学校機関が閉鎖となった。その後、8 月にようやく、手洗いや消毒を考慮して、水道設備の整っている高等教育機関から段階的に学校が再開していったが、小学校の全学年まで学校が再開したのは、最初の学校閉鎖から約 1 年後の 2021 年 3 月 21 日のことであった。

（モザンビークのコロナ新規感染者数の推移/シニャングァニーネ村の小学校が再開した際子どもたちにマスクを配っている様子）

2. モザンビーク海外支援事業：国内における活動

1）モザンビークオリンピック・パラリンピック選手団応援事業

愛媛県は東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録され、2019 年には県内でボクシングとパラ陸上の選手団が合宿を行った。新型コロナウイルスによる影響から延期になった後の 2020 年度にもオンライン交流やメッセージ動画を送るなどのホストタウン交流が引き続き行われた。当団体としてもこのような交流の様子を学校訪問やさまざまな交流等の機会を通じて、PR を行った

モザンビークと愛媛県のオリンピック・パラリンピックの交流は愛媛県庁のホームページから閲覧できる。

https://www.pref.ehime.jp/h14150/mozambique-ehime-camp.html

2）募金活動、モザンビーク・デー、武器アート展示・映像

■募金活動

今年度も募金箱設置に協力いただき、さまざまな主体等の協力を得て募金箱や寄付の協力を得ることができた。

■モザンビーク・デー

10 月 4 日がモザンビークの平和の日ということで、今年度も第 6 回 Happy Mozambique Day を開催した。

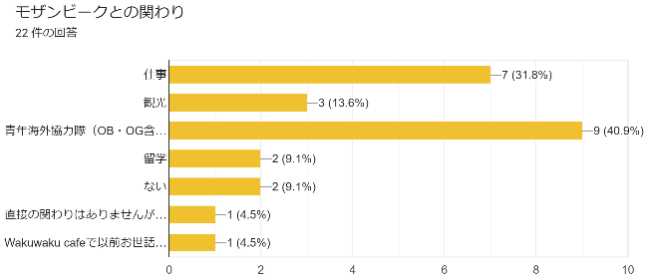
モザンビーク・デーは毎年 EGN 事務所にて開催していたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場参加者数に制限を設けて、Zoom にて開催した。当日のプログラムはモザンビークについて、愛媛とモザンビークの関係について EGN スタッフから発表があった後、愛媛大学の栗田先生から愛媛大学とルリオ大学の交流について発表があり、愛媛県がモザンビークのオリンピック・パラリンピックのホストタウンとなっていることから、愛媛県庁の河合氏からオリンピック・パラリンピックについて発表していただいた。その後 4 つのグループに分かれて意見交換を行った。

参加者数は会場参加が 13 名、Zoom 参加が 21 名の計 34 名であった。参加者には協力隊 OV や EGN と関わりのある方に多く参加してもらえた。参加後のアンケートでも満足度が高く、次回の開催についても多く希望が寄せられた。オンラインでの開催ということで、直接話す機会がなく、参加者同士のつながりを作るという点では満足な結果を得られなかったため、次回の開催時に反映させたい。

また、実施後はモザンビーク・デー限定セットとして、モザンビークの国旗が描かれたイケウチオーガニックタオル・ハンカチとフェアトレードコーヒーのセットを Shopify にて販売した。

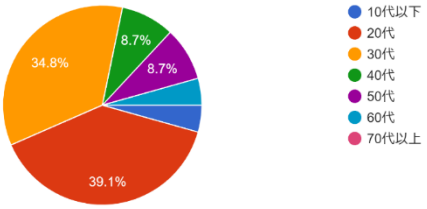
モザンビーク・デー　事前アンケート結果

参加者への事前アンケートでは、「モザンビークと関わりがある」と答えた人が多く、その中でも協力隊、仕事関係、次いで観光で関わった人が多い結果となった。

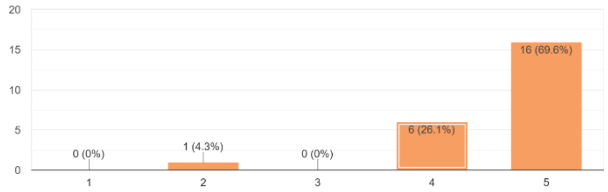


モザンビーク・デー　事後アンケート結果　年齢・満足度（1：不満～5：満足）

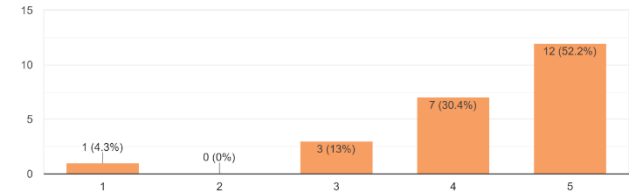
年齢
23 件の回答



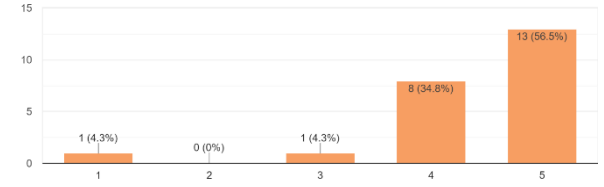
「モザンビークってどんな国？」についてご満足いただけましたか？
23 件の回答



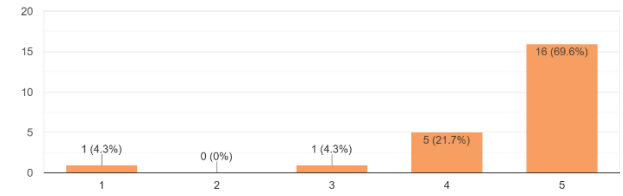
「オリンピック・パラリンピック」についてご満足いただけましたか？
23 件の回答



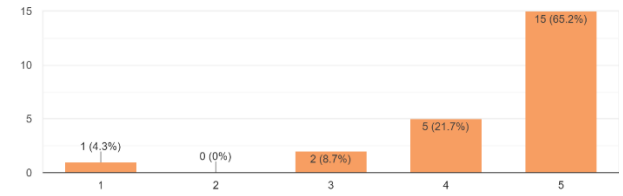
参加者交流会に参加してご満足いただけましたか？
23 件の回答



「愛媛とモザンビークのつながりとSDGs」についてご満足いただけましたか？
23 件の回答



「愛媛大学とルリオ大学のつながりとSDGs」についてご満足いただけましたか？
23 件の回答



モザンビーク・デー事後アンケートの結果によると、参加者の年代は 20 代、30 代が多く、参加者の約 3/4 を占めていた。満足度についてのアンケートでは、各セクションで高い満足度を得られたように見えたが、一部の参加者からは満足を得られていないようであった。

また、アンケートの中で「今後「モザンビーク・デー」で取り上げてほしいテーマ、講師等、ご希望」についてあげられたのは以下のとおりである。（一部抜粋）

- 渡航経験者のビフォーアフター
- 日本に留学、研修に来ているモザンビーク人の方の話
- EGN が建設した地域のコミュニティの活動内容、輸送した自転車のその後について
- モザンビークの現地スタッフ、日本に居るモザンビーク人、CCM など現場の話を現地の方から伺ったり、日本に居るモザンビークの方からお話を伺う機会、交流する機会があったらより良かったと思う。
- モザンビークの農業
- 今回、モザンビークに関係する人たちが数多くいたので、自分の画面の名前のあたりに関わりについて簡単に分かるような情報があったり、短くどんな人が参加しているかの紹介があっても良かった。
- 音楽について話されているかたがいらして、楽器やリズム、生活の中での音楽の存在感など知りたいなと思いました！
- 資源開発　開発　発展
- モザンビークの歴史、日本で生活しているモザンビーク人ゲスト

同様に「その他の意見、要望」についてあげられたのは以下のとおりである。（一部抜粋）

- 多くの方に会うことができて嬉しかったです。また参加したいです。
- とても楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました！
- 他の国々と比べると、日本人にとってまだアフリカは身近になっていないですが、EGN さんのお陰で、愛媛県の子どもたちは小さいうちからアフリカを知ることができ、羨ましく思いました。子どもたちのこういう経験が、今後の彼らの将来にきっと良い影響を生んでくれると思います。
- グループワークはあってよかったが、実際にお会いしていないので名刺交換や連絡先の交換などはできず、お名前を伺えた程度だったので、参加者との交流を今後深められるような仕組み、きっかけが今後もあればよいなと思った。

■武器アート展示・映像

7 月 24 日から 30 日にかけて松山市総合コミュニティセンターにて平和資料展が行われた。戦争遺品や原爆関係の展示と共に「モザンビークへの平和支援から学ぶ・考える世界の平和」と題して武器アートの展示や SDGs に関する情報提供、松山市内の小学校での取り組み内容の紹介などを行った。

今年度は、グローバルローカルかるたや絵本、冊子、映像、モザンビークから持ち帰った ESD 刺繍の施されたカプラナ布を展示するなど、来訪者に興味を持ってもらえるよう工夫した。

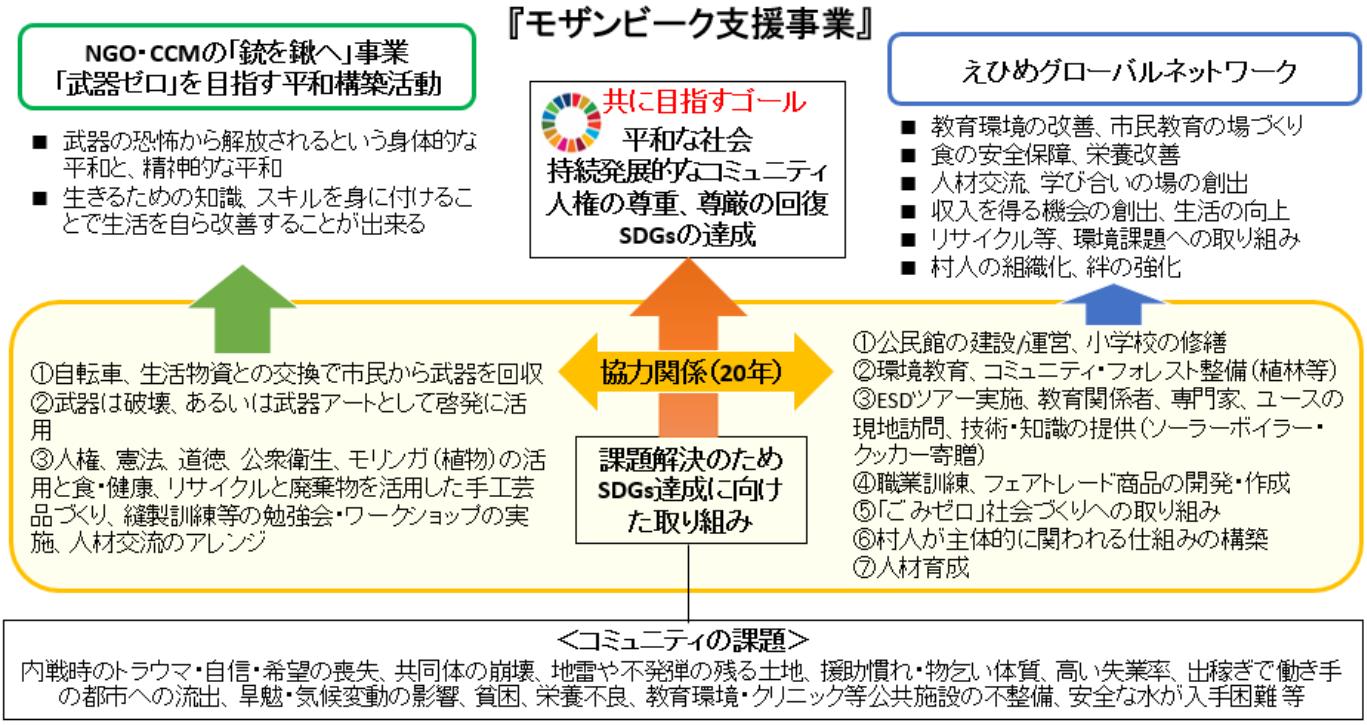
3)モザンビーク ESD 活動記録のまとめ・評価協働事業

■「モザンビーク ESD 活動記録のまとめ・評価協働事業」報告書の作成

「モザンビーク ESD 活動記録の
まとめ・評価協働事業」
報 告 書
2019 年 6 月 1 日～2020 年 8 月 10 日
特定非営利活動法人
持続可能な開発のための教育推進会議

2003 年より EGN が ESD を軸として取り組んできたモザンビーク支援事業と ESD 実践に関する記録を（特活）持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）と協働で取りまとめと評価を行い、「モザンビーク ESD 活動記録のまとめ・評価協働事業」報告書を作成した。

報告書には、事業の目的や当団体の活動の柱、当団体が考え定義する「ESD」が包括的なものでありかつ、概念として、①変化を促す学び、②協働的な学び、③成長する学び　であることを示すとともに、協働的なプロセスや成長するプロセスを含む概念であることなどを整理した。その後、作業の方向性やステークホルダーを特定し、松山とモザンビークの 1999 年からのつながりを記載した年表のほか、松山市内の学校で行った講師派遣の実施要旨などをこれまでの記録等を参照しながら掘り起こし、その内容をとりまとめ、下記の表のような形で活動とその関係性の整理を行うとともに、ESD の評価を行った。



▸「モザンビーク ESD 活動記録のまとめ・評価協働事業」報告書本文 P9 より

■地球環境基金からの評価

2019 年度までの期間に実施した、地球環境基金助成活動に係る事後評価結果の通知があり、各評価は以下のとおりである。

1. 計画の妥当性　　評価：A

2. 目標の達成度　　評価：A

3. 実施の効率性　　評価：A

4. 助成活動の効果（見込み）　　評価：A

5. 総合評価

当該団体は 11 年間ほど本件フィールドでの活動キャリアがあり、信頼関係を土台にした今回のプロジェクト設定である。3 年間の活動の具体は、①武器ゼロからごみゼロ社会へ。②コミュニテイフォレスト整備。③ユースの交流。それぞれの活動は丁寧で、地元住民が主体的に活動できるよう配慮し進め、団体自身の目的は遂行できたとのこと。今後も継続して関係を構築していくとのこと。助成金の費用対効果をみても価値のある活動であったと評価したい。ESD 及び SDGs の進捗がはかばかしくない日本国内において、この活動から学ぶべき点は多いと思われる。（～中略～）ユース世代の交流については、環境教育的視点から、彼ら（日本、モザンビークの若者）が今後どのような価値観を醸成していくのかも見守っていただきたい。今後、当地の社会情勢の変動や経済発展（あるいはその逆）などによって、今回の成果がどう変貌（継続）するのか、しないのか、そこで初めて今回のプロジェクトの真価が問われると思うべきであろう。（以上、通知文書からの転記）

4. フェアトレード事業：フェアトレード普及啓発

1）フェアトレード商品開発・販売

11 月 29 日、文部科学省令和 2 年度「『若年者の消費者教育の推進に関する集中教科プラン』における若年者の消費者教育推進のための実証的調査研究」事業の一環として、えひめ消費者教育研究会が主催する Clothes Loss「衣のいのちをつなぐ」セミナーにおいて、「カプラナ布の刺繍・製品化への道のり～フェアトレード応援商品開発～」と題するプレゼンを行い、活動状況について発表する機会を得た。

（https://www.youtube.com/watch?v=l7ALnmpLjTU&feature=youtu.be）

同研究会第 3 回目の勉強会では、新たな指導者・協力者を得ることが出来、カプラナ布の色落ち対処方法、染色方法、カプラナ布の活用方法や新たな商品開発の方向等について意見交換できた。

また、2019 年度に立ち上げた「wakuwaku-café」のネットショップ販売で、フェアトレード応援商品として販路を広げていくために、ESD や SDGs の言葉を刺繍したカプラナを販売サイトで扱うフェアトレードコーヒーのラベルに施し、四国フェアトレードネットワーク（4FT）マーク認証手続きを行った。ドリップコーヒーは、香川県のお花屋さんで扱ってもらえるようになり、フェアトレード商品を通じた販路拡大を進めることができた。

一方、新型コロナの影響により、愛媛県内の複数の高校との連携によるフェアトレードコーヒー販売を通じた PR 活動は、文化祭の中止などの影響を受け、広報・展開は思うようにできなかった。

▶ESD 刺繍入りカプラナデザインラベル

▶4FT マーク入りパッケージ

Ⅱ．環境保全事業

1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営委託事業

(1)中間支援機能の強化

四国 4 県の持続可能な地域づくりのため、各県の主体間の連携をコーディネートし、情報収集や中間支援組織との協働活動を行うために、サテライトデスクにスタッフを配置し、ネットワーク強化を図った。
その結果、各県の行政、企業、環境カウンセラー、地球温暖化防止活動推進センター、金融機関、教育機関、NPO 等と連携を図ることができ、自治体含む多様な主体からの依頼に対して情報提供や助言等を行うとともに、新たな取組に関する情報収集や中間支援等を行うことができた。

- 各県で県が主催または関係する委員会への委員就任、委員会や審査等などへの参画の機会を通じて、業務で得た経験や知見を提供、各種支援情報の受発信を行った。
- 各県サテライトデスクを拠点とした体制により、各県で県が主催する委員会の委員や審査等、協働で事業を実施するなど、各主体間のネットワークの深化やフォローアップを実施することができた。
- 各主体の強みを活かした役割分担をしながら、講演会やイベントなどの事業を協働で行うことができた。
- 学校や企業など、SDGs に取り組もうとする主体への講演やワークショップ、事例の提供を行った。また、エシカル消費やプラスチックごみなどに関するテーマでの講演が多かったため、改めて世間の関心の高まりを認識する機会となった。

■徳島県
- 城北高校探求の時間フィールドワーク先情報提供
  開催日:2020 年 7 月 6 日(月)
  場所:徳島県立城北高等学校(徳島県徳島市)
  出席者:4 名
  内容:城北高校が探求の時間で進めている、「JOHOKU × SDGs アクション！」のフィールドワーク先について、情報提供を行った。EPO がこれまで関わった企業や、エコアクション 21 認証を取得している企業等から、取組内容や生徒が訪問した際にできることを説明した。後日、担当教員から訪問先候補として企業を生徒に提案したところ、3 社への訪問が決定した。

■香川県
- 第 6 回かがわ環境活動団体交流会
  開催日:2021 年 2 月 9 日(火)
  場所:Zoom による WEB 会議、四国 EPO より出席
  主催:香川県、香川県地球温暖化防止活動推進センター、四国環境パートナーシップオフィス
  出席者:約 30 名
  内容:例年、対面で開催していた交流会をオンラインで開催した。まず、コロナ禍での活動について、動画を活用した取組の発信方法や新たな主体の巻き込みについて事例提供があった。その後のグループワークでは、今後の活動に関して、規模や対象を工夫して対面型のイベント実施の提案や、団体として動画作成などで支援してほしいなどの意見があり、同じグループにいた県担当者から、来年度事業の参考とするという回答があった。主催としては、開催の有無を含め、企画から実施まで、役割分担を行うことで、対面ができていなかった関係団体同士が集い、情報交換や交流する機会を設けることができた。

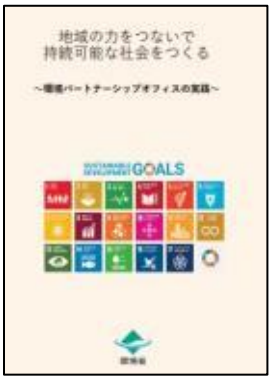
■高知県
- 令和 2 年度第高知県環境審議会総合部会(委員協力)
  開催日:2020 年 7 月 29 日(水)、10 月 22 日(木)、11 月 24 日(火)
  場所:高知会館(高知県高知市)
  主催:高知県林業振興・環境部環境共生課
  出席者:各回約 15 名
  内容:高知県環境基本計画第五次計画の策定方針について、委員として参画し助言を行った。地域循環共生圏や LS 四国を含め提案を行い、計画へ盛り込まれることとなった。

(2)相談対応及び情報収集・発信

環境をはじめとする諸課題の解決に取り組む個人や各主体からの各種相談等に対して、サテライトを含めて定例会等を通じて共有、対応を行い、各主体と連携して情報や知見の提供を行った。

- 環境をはじめとする諸課題の解決に向けた取り組み等のニーズ把握や情報収集については、新聞やヒアリング等で得た情報を相互参照し、必要に応じて各主体への展開を行った。
- 収集した情報は、EPO ネットワークや各種マスメディア、メールマガジン、フェイスブック等の SNS、紙媒体等を活用し、四国地域外へ幅広く情報発信を行うとともに、各種情報を有効に活用するために、SDGs 分類や市町村ごとに参照できるようデータベース化やファイリングによるアーカイブ化を行った。
- 四国 EPO 内の共用スペースや環境関連資料、書籍及び電子情報等については、コロナ禍で活用が制限される中、衛生対策や人数制限等の安全対策を取った上でのスペース提供を行った。
- 四国各県の中間支援組織と連携し、環境白書を読む会や助成金説明会等をインターネット等とのハイブリットで開催し、対面が制限される中、参加者数を確保することができた。
- スタッフ側においても、新たに Zoom を活用した会議やイベント運営の経験やノウハウが充実し、先駆的に取り組むことができた。
- その他、四国内の優良事例をスタッフや運営委員等の協力を得て収集し、「四国のおすすめ」としてまとめるとともに、カレンダーを作成した。また、「四国のおすすめ」記事は英語と中国語に翻訳し、四国の事例を発信する素地を整えた。
- イベント開催の代わりに取組発信動画を作成する機会を得たことから、小学生にも分かりやすい SDGs 動画（参考 1）を作成した。
- 全国に 8 か所ある EPO が各地域で支援した事例について、冊子（参考 2）を作成し、EPO の支援を時系列で可視化、発信することができた。
- 訪問者数は、累計 689 人（月平均約 57 名）、会議スペース利用は累計 30 件（月平均約 2 件）、環境関連資料は 12 冊を収集し、訪問者や HP、SNS で紹介を行った。
- 受けた相談は、年間 260 件、月平均 22 件であった。相談を受けたセクターとしては、NPO が一番多く、次いで、行政、個人、企業であった。地域については、香川県が一番多く、次いで徳島県、愛媛県、高知県であった。SDGs テーマについては、目標 4 が一番多く、次いで 17、12 であった。

＜参考 1＞
SDGs 動画作成



＜参考 2＞
EPO ネットワーク冊子

＜参考 3＞
広報誌「しこくえぽ」

2020年度 講師派遣研修等受入一覧（委員・四国EPO分）

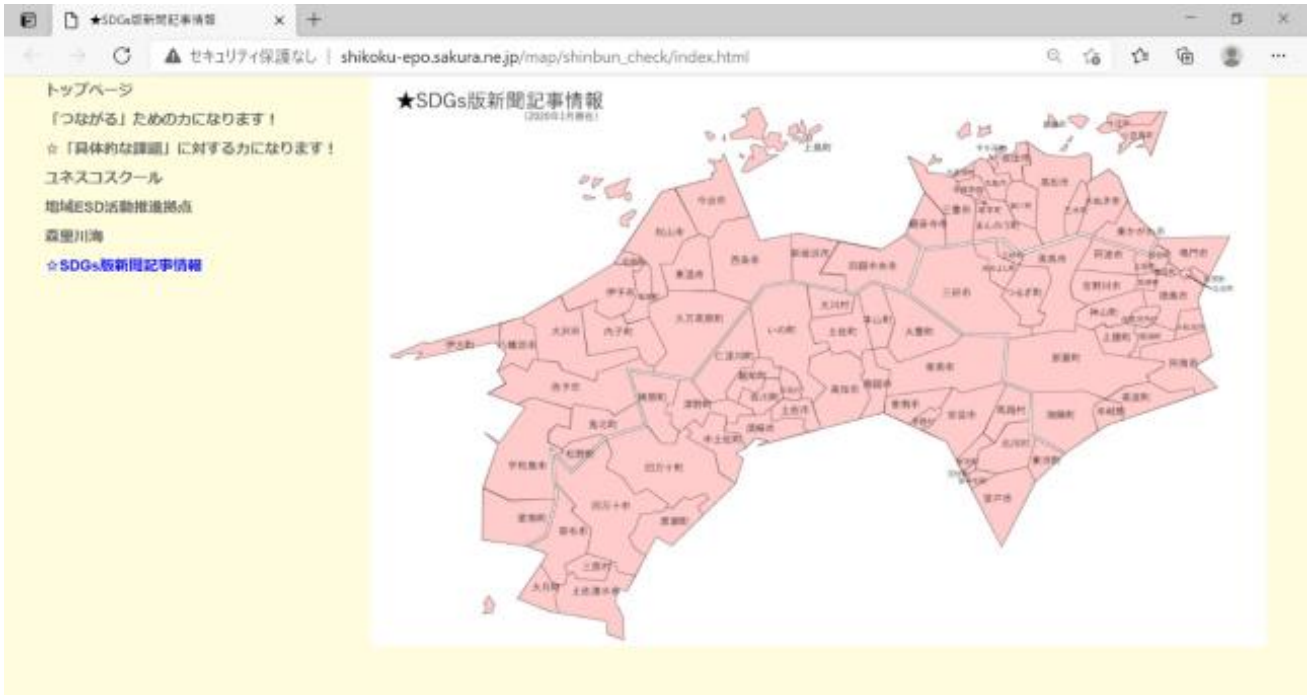
No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	対象人数
1	5	27	木	かがわ里海大学協議会	昨年度実施された事業監査	香川県	かがわ里海大学協議会	9
2	6	3	水	地球環境保全活動支援事業補助金審査会	令和2年度助成希望団体の申請内容の審査	香川県環境保全公社	（公財）香川県環境保全公社	9
3	6	19	金	高知県環境基本計画改定委託業務プロポーザル審査会	高知県環境基本計画委託業務実施事業者の選定	共済会館	高知県環境共生課	17
4	7	15	水	都市計画区域マスタープラン検討委員会	第2回の香川県計画素案の検討	香川県	香川県都市計画課	30
5	7	29	水	高知県環境審議会総合部会	令和2年度第1回部会における高知県環境基本計画第5次計画案審議	高知会館	高知県環境共生課	15
6	7	30	木	省エネルギー優良事例普及事業	令和2年度省エネルギー優良事例普及事業審査	書類審査	四国経済産業局エネルギー対策課	3
7	8	19	水	中学校集団宿泊学習改善検討会	香川県立五色台少年自然センター第1回会議	五色台少年自然センター	香川県教育委員会	12
8	8	27	木	研究テーマ外部評価委員会	第1回香川県環境保健研究センター研究テーマ外部評価委員会	香川県環境保健研究センター	香川県環境管理課	20
9	9	4	金	香川県環境審議会	第38回香川県環境審議会	香川用水資料館	香川県環境政策課	37
10	9	11	金	SDGsアクター規格制定委員会	SDGsアクタースキーム、実施体制、スケジュール等検討	Web会議	持続可能な地域創造ネットワーク	10
11	9	15	火	第1回香川県食品廃棄物削減推進協議会	第1回香川県食品廃棄物削減推進協議会	香川県社会福祉総合センター	香川県廃棄物対策課	24
12	10	1	木	ボランティア・NPO支援事業選考委員会	令和2年度第1回選考委員会	香川県	香川県男女参画・県民活動課	10
13	10	2	金	研究テーマ外部評価委員会	第2回香川県環境保健研究センター研究テーマ外部評価委員会	香川県環境保健研究センター	香川県環境管理課	20
14	10	19	月	都市計画区域マスタープラン検討委員会	第3回検討委員会	四国EPO	香川県都市計画課	2
15	10	20	火	中学校集団宿泊学習改善検討会	香川県立五色台少年自然センター第2回会議	香川県社会福祉総合センター	香川県教育委員会	18
16	10	22	木	高知県環境審議会総合部会	令和2年度第2回部会における高知県環境基本計画第5次計画案審議	高知会館	高知県環境共生課	15
17	11	20	金	高知県環境審議会生活環境部会	第5期高知県廃棄物処理計画素案審議	高知県衛生研究所	高知県環境対策課	14
18	11	24	火	高知県環境審議会総合部会	令和2年度第3回部会における高知県環境基本計画第5次計画案審議	高知会館	高知県環境共生課	15
19	11	24	火	第2 回香川県食品廃棄物削減推進協議会	第4回香川県食品廃棄物削減推進協議会		香川県廃棄物対策課	20
20	12	17	木	ボランティア・NPO支援事業選考委員会	令和2年度第3回香川県ボランティア・NPO支援事業選考委員会	Web会議	香川県男女参画・県民活動課	9
21	12	24	木	中学校集団宿泊学習改善検討会	香川県五色台少年自然センターにおける中学校集団宿泊学習改善検討会第3回会議	香川県社会福祉総合センター	香川県教育委員会	12
22	1	29	金	高知県環境審議会生活環境部会	第5期高知県廃棄物処理計画等親愛の修正版審議	高知県衛生環境研究所	高知県環境対策課	11
23	1	29	金	生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	第1回生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	高知県男女共同参画センター	高知県環境共生課、（特非）環境の杜こうち	7
24	2	2	火	高知県環境審議会	第4次高知県環境基本計画報告、第5次高知県環境基本計画案審議	高知会館	高知県環境共生課	50
25	2	12	金	第3回香川県食品廃棄物削減推進協議会	第3回香川県食品廃棄物削減推進協議会	香川県社会福祉総合センター	香川県廃棄物対策課	20
26	2	18	木	生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	第2回生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	高知県男女共同参画センター	高知県環境共生課、（特非）環境の杜こうち	6
27	2	19	金	下水汚泥有効利用検討委員会	令和2年度第1回高知県下水汚泥有効利用検討委員会	高須汚泥センター	高知県公園下水道課	25
28	2	26	金	ESD推進事業協議会	令和2年度ESD推進事業協議会	新居浜市市民文化センター	新居浜市教育委員会	20
29	3	16	火	SDGsアクター審査会	SDGsアクター審査会	Web会議	持続可能な地域創造ネットワーク	10
30	3	18	木	香川県環境審議会生活環境部会	第25回香川県環境審議会生活環境部会	香川県	香川県環境管理課	10
31	3	19	金	生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	第3回生物多様性の意義の普及・啓発を目的とする表彰事業実施準備委員会	高知県男女共同参画センター	高知県環境共生課、（特非）環境の杜こうち	6
32	3	25	木	SDGsアクター審査会	SDGsアクター追加審査会	Web会議	持続可能な地域創造ネットワーク	10
33	3	24	水	高知県環境審議会総合部会	令和2年度第4回部会における高知県環境基本計画第5次計画案審議	高知会館	高知県環境共生課	15

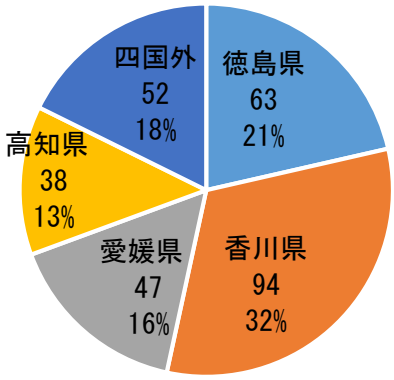
マッピングデータベース

四国の ESD 環境データベース公開

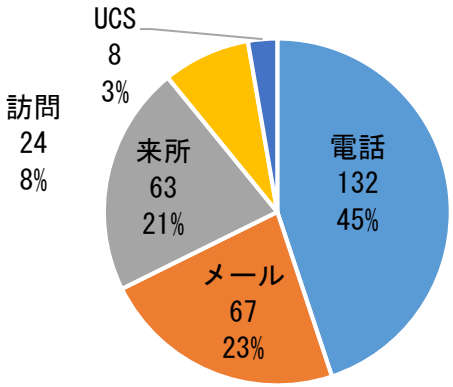
http://shikoku-epo.sakura.ne.jp/map/shinbun_check/index.html

■SDGs 版新聞記事情報（2019 年 5 月 1 日～2020 年 8 月 31 日までの 3,156 件）

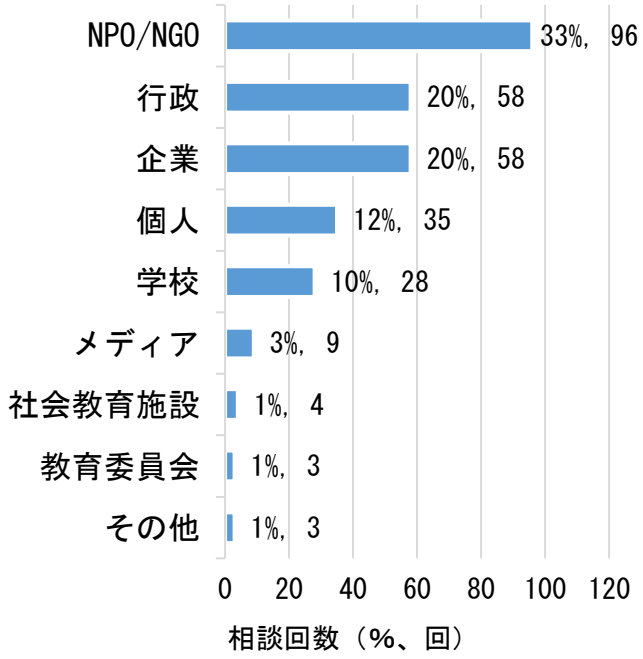




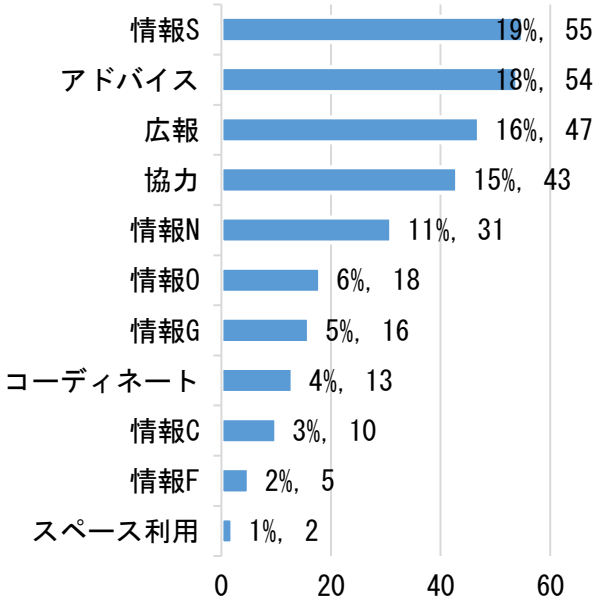
＜地域の内訳＞



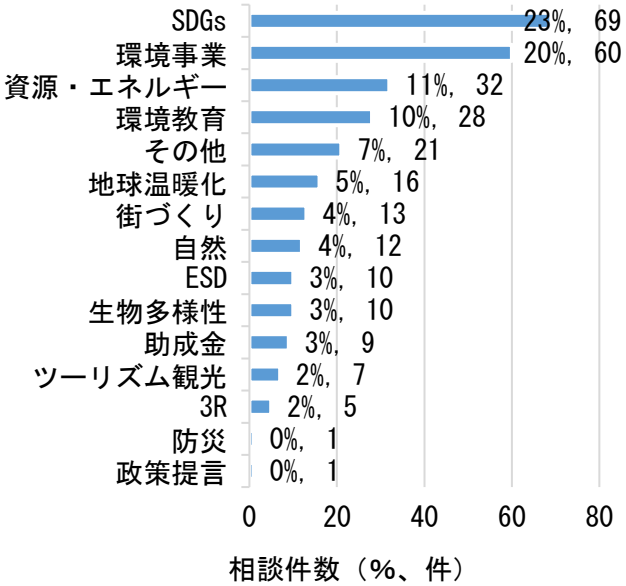
＜アクセス方法＞



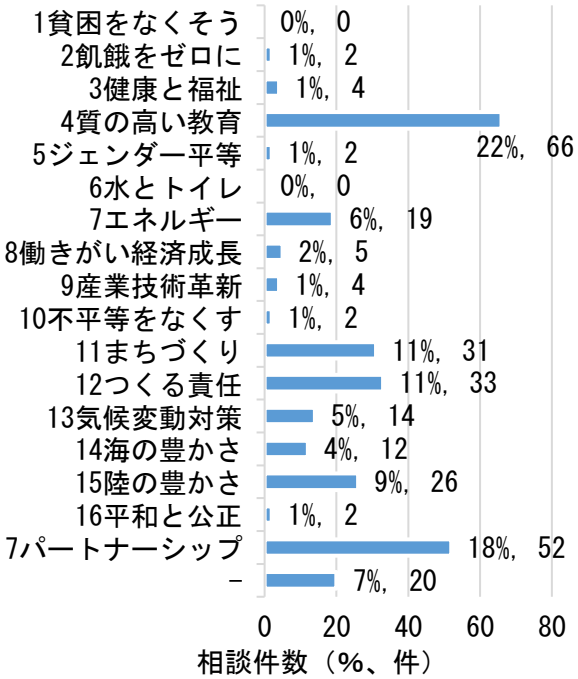
＜セクターの内訳＞



＜要望の内訳＞



＜相談テーマ・SDGs の内訳＞



(3)政策提言支援

市民や NPO、企業、自治体等が環境分野をはじめとする政策の企画や提案ができるよう、政策提言に関する相談を受け付けるとともに、環境白書を読む会など等を通じて、最新情報の提供や意見交換を実施した。また、自治体が策定する計画づくりに委員として参画し、SDGs や地域循環共生圏をはじめ、脱炭素やパートナーシップなど持続可能な視点で提案することができた。

■香川県

- 香川県食品ロス削減推進協議会
  開催日:2020 年 9 月 15 日(火)、11 月 24 日(火)、2021 年 2 月 12 日(金)
  場所:香川県社会福祉総合センター(香川県高松市)
  主催:香川県環境森林部廃棄物対策課
  出席者:各回約 20 名
  内容:国が定めた方針に基づき、香川県食品ロス削減推進計画(仮称)の策定を目指していることから、委員として計画づくりに参画した。3 回にわたる会の中で、意見交換や提案を経て、計画策定にかかる助言や提案を実施することができた。

■四国

- 環境白書を読む会
  開催日:2020 年 8 月 28 日(金)
  場所:Zoom による WEB 会議、四国 EPO、エコみらいとくしま、(特活)えひめグローバルネットワーク、こうち男女共同参画センターより出席
  主催:環境省、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、四国 EPO
  出席者:65 名
  内容:環境省担当者による解説と質疑応答を行った後、参加者同士で意見交換する内容のプログラムを運営した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、Zoom と定員を設定した会場での開催となった。音声接続などの通信環境の課題を把握する機会となったが、Zoom であったことから気軽に参加ができたという参加者からの声や Zoom 上でグループワークができたという手ごたえを事務局側としても得ることができ、今後のイベント運営に向けた手法を実践する機会となった。

(4)持続可能な社会の実現に向けた協働取組モデルの創出及び支援

四国地方で活動する各主体と連携し、活動への助言や情報共有等の協働取組支援を行った。今年度は、グリーンギフト事業の支援だけでなく、中小企業家同友会等の企業との協働取組が進んだ。

■徳島県

(株)パッケージ松浦社員研修
開催日:2020 年 9 月 26 日(土)
場所:(株)パッケージ松浦(徳島県徳島市)
出席者:5 名
内容:パッケージ会社として SDGs にどのように取り組めばいいか悩んでいるため、社員向けに研修をしてほしいと依頼があり、プラごみ削減を担当している県職員と共に、SDGs や県のプラ削減の取組について説明を行った。その後の意見交換では、パッケージを取り扱う企業だからこそできる SDGs の取組について、アイデアを出し合った。プラ削減や分別のしやすいパッケージの提案、商品の魅力を発信するデザインの提案等のアイデアが出され、顧客に提案されることになった。

■愛媛県

- 愛媛県中小企業家同友会環境経営部会 2021 年度方針策定ワークショップ
  開催日：2021 年 2 月 14 日（土）
  場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO 愛媛サテライトデスクより出席
  主催：愛媛県中小企業家同友会環境経営委員会
  参加者：14 名
  内容：今年度実施した再生可能エネルギーの 4 回にわたる勉強会の振り返りの後、ファシリテーターの進行により、2030 年における望ましい環境の状況について、ディスカッションを行った。続いて 2021 年度の計画素案に関して意見交換を行い、2021 年度事業の柱となる、今治市における再生可能エネルギー創出事業や社屋における太陽光発電の導入推進、環境経営推進のための普及啓発活動・情報発信について、具体的な進め方を検討し、全体で共有を図った。再エネ事業については、LS 四国キックオフフォーラムの分科会としても積極的に活動していくことが確認された。

(5) 第 5 次環境基本計画の具現化に向けた取組

(ア) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援等業務

「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業（以下「プラットフォーム事業」）」では、採択された 3 団体に対し、ヒアリングを実施し、課題抽出支援を行うとともに、意見交換を実施し、相談対応や情報の受発信、定期的な打ち合わせ、関係者との合意形成、まんだら等のツールを活用した課題整理・協働取組につながるような提案、今後の支援メニュー拡大等につながる伴走支援を行った。

意見交換会では、それぞれの団体の実情に応じて、地域のビジョンやステークホルダーの巻き込み、成果指標、収益性の観点に結び付けるような問いかけを行うなど、意見交換が活発化するようファシリテーターと協力しながら実施した。

その他、支援チーム派遣対象となった事業については、支援チームと採択団体との連絡調整や橋渡しを行いながら進捗をサポートした他、以上の進捗については、全国の情報交換会等で適宜、報告を行った。

■かみかつ茅葺き学校（徳島）

- 意見交換会
  開催日：2020 年 10 月 13 日（火）
  場所：Zoom による WEB 会議、高丸山千年の森ふれあい館、四国　EPO より出席
  主催：かみかつ茅葺き学校
  出席者：12 名
  内容：採択団体から経緯や現在の取組について説明を行った後、活動拠点となっているかやぶき民家を活用して何ができるか、どんな可能性があるか等について、出席者と意見交換を行った。プログラムを作り、ESD の場として活用する案や、ゼロ・ウェイストな暮らし方を体験する場としての活用等の意見があり、今後の取組の展開につながるアイデアを得る場となった。

■コウノトリ定着推進連絡協議会（徳島）

- 意見交換会
  開催日：2020 年 11 月 5 日（木）
  場所：Webex Meetings による WEB 会議、四国 EPO・徳島・愛媛サテライトデスクより出席

主催：四国 EPO
出席者：19 名
内容：翌月に試行するエコツアーのプログラムをテーマに、意見交換会を開催した。プログラムづくりの担当者から、協力いただく店舗やガイドに謝礼を払うことができるようにし、持続できるツアーを目指していることや行程についての説明後、全体で意見交換を行った。1 日のプログラムは長すぎるのではないか、設定金額が高すぎるのではないか、ターゲット層はどこかといった意見が出た。その結果、ツアーを半日程度にすることで時間と金額を押さえること、使用する自転車が若い女性に人気の車種であるため、同じ層をターゲットにすること等の提案があった。得た意見を踏まえ、担当者がプログラムを再考することになった。国土交通省でエコツアーを検討しているワーキングメンバーの出席もあり、それぞれが目指す方向性の確認や意見交換を行うことができた。

■（特活）NPO84 プロジェクト（高知）

- 意見交換会
  開催日：2020 年 11 月 13 日（金）
  場所：佐川町商工会会議室（高知県佐川町）
  主催：四国 EPO
  出席者：14 名
  内容：84 プロジェクトの本年度の事業推進の中心である自伐型林業施業を広めるための環境整備や現状と課題について共有し、今後の活動の広がりを進めるための場を設定した。前半は佐川町が自伐型林業を推進できた条件整備や住民との協力関係を共有した。林業家からは収入面や生活、地域との関わり等、それぞれを大切にできる暮らしができるとの共有があった。後半は自伐型林業の施業現場を視察し、美しい山の風景を次世代につなげることや、山を災害から守る施業のあり方について理解を深める機会となった。

■全国の会議

- 作業部会
  開催日：2020 年 10 月 23 日（金）、12 月 1 日（火）
  場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO・徳島サテライトデスクより出席
  主催：GEOC
  出席者：各回約 25 名
  内容：きんき環境館、EPO ちゅうごく、四国 EPO、EPO 九州、沖縄県公衆衛生協会から、環境整備支援の進捗について説明後、アドバイザリー委員からのコメントを経て、出席者間で意見交換を行った。団体によって進捗がさまざまであり、地域循環共生圏の考えが落とし込めていない団体があることや、人材不足、ステークホルダーの巻き込みが弱いといった課題があることを把握した。意見交換では、採択時の審査基準を明確にすることや、本事業の進め方や成果として何を求められているかの認識が共有できていない団体が多いことから、事業開始時に採択団体にインプットする等、来年度に向けた対応について、意見交換する機会となった。

- 中間報告会
  開催日：2020 年 12 月 8 日（火）、9 日（水）
  場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO・徳島サテライトデスク・スタッフ自宅より出席
  主催：環境省大臣官房環境計画課、いであ（株）
  出席者：各回約 80 名
  内容：採択団体から、これまでの取組内容や進捗状況について発表があった後、質疑応答を行った。四国 3 団体も発表を行い、成果や課題を共有する機会になった。

- 第 2 回情報交換会（成果報告会）
  開催日：2021 年 3 月 9 日（火）、10 日（水）
  場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO・徳島・高知サテライトデスクより出席
  主催：環境省大臣官房環境計画課、いであ（株）
  出席者：各回約 100 名
  内容：採択団体から、今年度の取組内容や、取組による地域の変化や気づきについて発表後、質疑応答を行った。四国 3 団体も発表を行い、成果や課題を共有する機会になった。後半のネットワーキングイベントでは、北海道と四国の採択団体のグループでファシリテーターを勤め、コウノトリ定着推進連絡協議会が購入しようとしていたシュロを、かみかつ茅葺き学校から提供できることが分かり、ニーズとシーズの把握やマッチングの機会へとつながった。

（ア）地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

地域の金融機関、経済団体等が関係する情報交換会やワークショップ等へ参加・協力するなどして、地域循環共生圏の主体となりうる企業・金融機関とのパートナーシップ形成を図った。
同業務で取り組んできた成果を踏まえ、2 月にローカル SDGs 四国（LS 四国）キックオフフォーラムを開催し、幅広い主体の参画を得ることができた。また、上記、検討を重ねる中で企画運営委員会の構成員として、自治体、企業、大学、NPO、JICA 等の参画が得られるとともに、金融機関とのヒアリングを通して課題解決支援チームのフレームをつくり、協働推進する体制を検討することができた。また、これらさまざまな業務の連携依頼や会議の企画、構成及び運営やとりまとめについては、四国事務所と相談し、役割分担をしながら進めることができた。

- 訪問等による説明
  LS 四国の取組の推進に向けて、会員や役員に就任いただきたい四国内の行政や団体を訪問し、LS 四国の趣旨説明と意見交換を実施した。環境省環境経済課や中四国事務所、四国財務局、四国経済産業局等とも意見交換を行った。

- 四国のローカル SDGs を語ってつくる！（情報交換会）の開催
  開催日：2020 年 9 月 23 日（水）
  場所：Zoom による WEB 会議、ホテルアネシス瀬戸大橋（香川県宇多津町）、四国 EPO・徳島・愛媛・高知サテライトデスクより出席
  参加：77 名（行政・地方自治体職員、活動団体、有識者、企業、金融機関、協働団体、関係者等）
  内容：地域循環共生圏や LS 四国が目指す場づくりのイメージと活動内容、分科会のイメージを四国 EPO から紹介した。その後、各地の実践者から分科会として連携できるプロジェクトや活動について発表いただき、四国で展開されている事例を具体的に紹介する機会となった。リレートークでは、関係者から LS 四国への期待や可能性を語りあい、オンライン参加者にも臨場感や熱気を伝えることができた。今後の会合の予定についても発信を行い、参加を呼び掛けた。

- 四国ブロック会議（LS 四国）設立原案の策定及び協議会の開催
  開催日：2020 年 11 月 12 日（木）
  場所：Zoom による WEB 会議、とくぎんトモニプラザ（徳島県徳島市）、四国 EPO・愛媛・高知サテライトデスク、スタッフ自宅より出席
  参加：18 名（行政・地方自治体職員、活動団体、企業、協働団体、関係者等）
  内容：環境省四国事務所と事務局より、LS 四国について設立趣旨や会員登録に関するメリットの説明を行った。その後、各グループに分かれて意見交換を行い、一般参加者からは自社経営を軸に発展させていくべき等の意見を得た。

- 四国ブロック会議（LS 四国）設立原案の打ち合わせ会議の開催

開催日：2020 年 12 月 18 日（金）
場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO・各県サテライトデスクより出席
参加：22 名（行政・地方自治体職員、活動団体、企業、一般、協働団体、関係者等）
内容：LS 四国の設立に向けて、設立趣意書やビジョン、行動方針、規約骨子案について事務局から説明後、意見交換を行った。その中で、趣意書を先に固め、ビジョンや行動指針は後回しにした方が良いのではないかという意見や、文面のワードの統一について提案があった。その後は、各分科会の紹介を行い、情報共有することができた。

- 四国ブロック会議（LS 四国）設立総会の開催
開催日：2021 年 2 月 17 日（水）
場所：Zoom による WEB 会議、香川県社会福祉総合センター（香川県高松市）より出席
参加：12 名（行政・地方自治体職員、活動団体、有識者、企業、金融機関、協働団体、関係者等）
内容：議長を選出した後、事務局から設立趣意書やビジョン・行動指針、規約、設立当初の役員、令和 2・3 年度の事業計画および活動予算について説明を行った。委員に諮ったところ、異議なく承認可決され、LS 四国が設立された。

- 四国ブロック会議（LS 四国）キックオフの開催
開催日：2021 年 2 月 17 日（水）
場所：Zoom による WEB 会議、香川県社会福祉総合センター（香川県高松市）と四国 EPO より出席
参加：約 200 名（行政・地方自治体職員、活動団体、有識者、企業金融機関、協働団体、関係者等）
内容：共同代表が設立趣意書を読み上げ、設立を宣言した後、LS 四国について事務局から説明を行った。その後、3 つの分科会の取組紹介と四国各県内等の事例紹介を行った。

- 四国ブロック会議の発展に向けた会議（LS 四国第 1 回企画・運営委員会）の開催
開催日：2021 年 3 月 19 日（金）
場所：Webex Meetings による WEB 会議、四国 EPO・各県サテライトデスクより出席
参加：10 名（LS 四国役員、事務局）
内容：LS 四国入会申込書や分科会登録申請書の確認、協力期間・アドバイザー、課題解決支援チームについて内容を確認し、審議を行った。また、ロゴについては後日、投票によって、決定する方針を共有した。本会では、来年度の事業計画案も共有し、今後、具体的に内容を詰め、企画運営委員会で確認することとした。

（ウ）四国　森里川海推進ネットワーク形成会合

開催については、足摺宇和海国立公園が立地する高知県幡多地域と日本ジオパークに認定されている愛媛県西予市で開催した。高知での開催については、直前で新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から全面リモート開催を余儀なくされ、同地域の自治体関係者の出席が実現しないなどの事態が発生しつつも、情報交換の場では、地域の一次産業関係者ならびに自治体、企業、活動団体、一般市民など、多様な主体の参加が得られ、森里川海の四国内での発信を進めることができた。

- 森里川海推進ネットワーク形成会合 2020「第 1 回　高知県幡多地域の地域循環共生圏編」

開催日：2020 年 12 月 13 日（土）
場所：Zoom による WEB 会議、四国 EPO・各県サテライトデスクより出席
参加者：約 40 名
内容：環境省中国四国地方環境事務所長からローカル SDGs に関する基調講演後、各県の SDGs に取り組む団体から事例報告があった。その後の意見交換会では、四国の広い枠で連携して、お互いの資源を上手く組み合わせることが四国循環共生圏につながることを共有した。

- 森里川海推進ネットワーク形成会合 2020「第 2 回　四国西予ジオパーク編」

開催日：2020 年 12 月 20 日（土）
場所：Zoom による WEB 会議、西予市宇和文化会館（愛媛県西予市）、四国 EPO・各県サテライトデスクより出席
参加者：45 名
内容：基調講演では、ジオパークの取組の経済における展開として、サステイナブルツーリズムの解説や多様な主体との関係が構築されている事例の報告等があった。地元の活動組織から、ジオパーク関連の資源を活用したツアーや特産品、環境教育等が報告された。さらに、四国各県から地域資源の活用に関する取組について、オンラインで報告を得て、四国のポテンシャルを共有する機会となり、地域循環共生圏構築への発展が期待される。

（6）四国環境パートナーシップ表彰の実施

四国地方で環境の諸問題に取り組む個人や NPO 等、企業、行政等の環境保全や地域循環共生圏に資する取組、SDGs、ESD 等の取組に対して、先進事例の創出と人材や団体の育成につながるような取り組みを中間支援と連携しながら発掘するために、「第 6 回四国環境パートナーシップ表彰」を企画し、実施した。
表彰式周知にあたっては、中間支援組織等への協力依頼とともに、チラシ等を中心とした PR を行った。その結果、今年度は ESD 人材育成部門に 3 件、地域課題解決部門に 14 件の応募があり、4 名の委員による審査の結果、大賞 1 件、優秀賞 4 件を選出した。その後、受賞団体を対象とした表彰式を 3 月に松山市で開催し、基調講演については、EPO 東北の協力を得て、ケンタロ・オノ氏に依頼し「The future we want ＝私たちが望む未来。キリバスからのメッセージ＝」をテーマに講演いただいた。当日の状況は、愛媛新聞の記事掲載につながり、マスメディアでも PR することができた。

- 第 6 回四国環境パートナーシップ表彰式

開催日：2021 年 3 月 13 日（土）
場所：Zoom による WEB 会議、二番町ホール（愛媛県松山市）より出席
出席者：30 名
内容：ファイナリスト 5 団体が取組の発表を行い、審査委員との質疑応答を行った。基調講演を視聴した後、審査発表ならびに賞状の授与を行った。発表事例は、地域資源を活かし、多様な主体と協働で活動を展開し、地域に根付く仕組みに発展していることがうかがえ、発表団体とは今後も連携し、地域循環共生圏の構築につなげていくことが期待される。

4. 日本NPOセンター委託・グリーンギフト支援

- 東京海上日動火災保険(株)が実施するグリーンギフト支援事業として、四国内の NPO 1 団体(徳島県上勝町の(一社)かみかつ里山倶楽部)が実施する環境活動イベントの実施を支援した。

- 親子で初めての山歩き　高丸山の秋探し
  開催日:2020 年 10 月 31 日(土)
  場所:高丸山千年の森ふれあい館、高丸山(徳島県上勝町)
  出席者:約 30 名
  内容:高丸山千年の森ふれあい館でガイダンスを行った後、高丸山に向かい、山歩きを行った。活動団体のスタッフがガイドを行い、見つけた植物の名前を説明したり、香りのする葉を嗅いだり、18 種類の見本に近い色の落ち葉等を集めながら、中腹まで登った。休憩後に、参加者が集めたものを並べ、自然界には同じものはないことを学んだ。また、訪れた場所がシカの食害で土がむき出しになっているが、10 年ほど前までは笹が茂っていたことや、シカ除けネットで下草や木を守っていること、山が荒れることで街に住む参加者にも影響があることについて、説明があった。初めて山に入った参加者が多かったが、山が遠い存在ではないことを伝えることができた。

5. 地球環境基金助成金説明会の開催

- 2021 年度地球環境基金助成金説明会
  開催日:2020 年 10 月 28 日(水)
  場所:Zoom による WEB 会議、四国 EPO、エコみらいとくしま(徳島県徳島市)、(特活)えひめグローバルネットワーク(愛媛県松山市)、こうち男女共同参画センター(高知県高知市)より出席
  主催:(独行)環境再生保全機構
  出席者:42 名
  内容:第 1 部「環境 NGO・NPO による各地域の活動事例」では、過去に助成を受けた 3 団体から活動発表の中で、助成期間中に直面した課題や困難を乗り越える上での工夫、コロナ禍での活動の状況等、経験を含めて話題提供いただいた。その後、Zoom のブレイクアウトルームを活用し、各発表団体と参加者が 3 グループに分かれ、質疑応答や意見交換を行った。第 2 部「地球環境基金助成金要望の募集について」では、基金担当者から、助成金についてよく寄せられる質問や今年度の変更点等の情報が提供された。全体のプログラムを通して、助成金申請につながるよう運営を行った。

2020年度　講師派遣研修等受入一覧（講師派遣・四国EPO分）

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	対象人数
1	6	16	火	あどぷとエコスクール講演会	SDGsの説明	加茂名南小学校	加茂名南小学校	105
2	7	3	金	企業のSDGsの取組を進めるための学習会	SDGsを企業活動に活用するための学習会	こうちエコハウス	高知県木材工業連盟協同組合	9
3	7	23	木	身の回りの環境問題	プラスチックごみや食品ロス、SDGsなどについて紹介	香川大学	香川大学	155
4	9	3	木	講演	SDGsと四国EPOやESDセンターの紹介	高知県立高知南高等学校	高知県立高知南高等学校	30
5	9	11	金	地域課題をSDGsとつなげる	総合的な探求の時間でのSDGs概要や取組紹介	香川県立坂出高等学校	香川県立坂出高等学校	250
6	9	17	木	BCP研究部会	SDGsについて	Web講演	徳島大学環境防災研究センター	20
7	9	23	水	9月度合同例会講演	中讃第1支部・中讃第2支部・三豊支部・環境経営委員会合同開催	ホテルアネシス瀬戸大橋	香川県中小企業家同友会	60
8	9	26	土	（株）パッケージ松浦社員研修	SDGsの説明と、自社の取組にどう取り入れるかのワークショップ開催	（株）パッケージ松浦	（株）パッケージ松浦	3
9	10	14	水	SDGs講演会	SDGsの説明	徳島県立池田高等学校辻校	徳島県立池田高等学校辻校	55
10	10	16	金	協働の森フォーラム	第14回高知県協働の森フォーラムモデレーター	高知県立県民文化ホール	高知県	200
11	10	21	水	SDGs講演会	SDGsの説明と、自分に何ができるかを考えるワークショップ開催	三好市立三野中学校	三好市立三野中学校	42
12	11	16	月	エコライフ論	SDGsに関する講義	四国大学	四国大学	41
13	12	1	火	高知県環境カウンセラー協会定例会	四国のSDGs取組について～ローカルSDGs四国設立に向けた動き～	高知市市民活動サポートセンター	高知県環境カウンセラー協会	15
14	12	3	木	地域循環共生圏ESG金融フォーラム	地域循環共生圏　四国地域ブロック会議について	Web講演	東北環境パートナーシップオフィス	277
15	1	20	水	高知市教育研究会社会科（小）部会	国際理解教育や多文化共生、ESDセンター、EPO紹介	高知市立昭和小学校	高知市社会科研究会	60
16	3	20	土	四国連携環境を考える会	「四国の無限の可能性再発見！」～地域の魅力をデザインする～	サンポートホール	香川県中小企業家同友会	30

Ⅲ．教育・ネットワーク事業

1．四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）関係業務

（1）ESD 活動を支援する情報共有機能

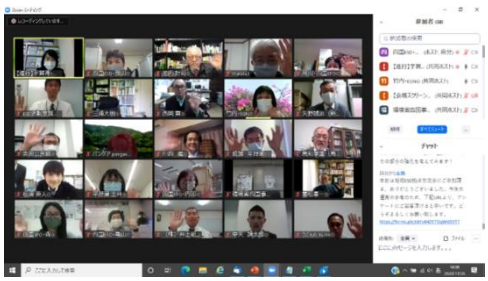
- 四国地方における ESD 推進の取組を強化・支援するため、各地でのあらゆる機会を捉え、ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び発信を行った。SDGs 経営による企業価値向上に関する情報や ESD 関連の表彰、国際協力のイベントや消費者教育研修など、分野を問わず広く収集した ESD 情報は WEB サイトのコンテンツ、SNS 等で発信し、共有した。

- 四国 ESD センターホームページには 137 件の記事掲載、SNS では 18 件の情報発信、メールマガジンは月 1 回配信し、毎月 SDGs の紹介とあわせて記事作成を行った。フェイスブックについては四国 EPO のページに月 1 回の頻度でレポートを掲載する形で情報提供を行い、情報（リソース）センターとしての機能を強化することで、必要な人に必要なタイミングで情報を届けることが出来るような体制を整えた。

- 他に西日本放送ラジオ番組への出演、新聞への情報提供を通じて四国内外へ広く発信を行った。

（2）ESD 活動に関するネットワークの構築

- 地域 ESD 拠点交流会の開催
  開催日：2020 年 11 月 26 日（木）
  場所：Zoom による WEB 会議
  主催：四国 ESD センター、中国四国地方環境事務所四国事務所
  内容：開会挨拶の後、各地域 ESD 拠点の取組紹介や LS 四国の説明、以上を踏まえた意見交換を行った。意見交換では、共通項のある参加者同士でグループ分けを行ったため、活発な意見が出され、最後に全体でその内容を共有し、今後の連携方法の参考になった。



- 地域 ESD 拠点の登録の推進等
  可能性のある企業、団体を訪問し、丁寧な説明を行うことで地域 ESD 拠点への理解を深めてもらうことができた。今年度は（一社）そらの郷（徳島）、パンゲアフィールド（徳島）、（株）井上組（徳島）、（株）相愛（高知）の登録が完了した。全国各地での登録が進んでおり、四国は昨年度までに登録の新居浜市教育委員会（愛媛）、高松ユネスコ協会（香川）、IKEUCHIORGANIC（株）（愛媛）、（株）ハレルヤ（徳島）、（株）土佐山田ショッピングセンター（高知）、室戸ジオパーク推進協議会（高知）、（株）平野 平野薬局（愛媛）、（特活）えひめグローバルネットワーク（愛媛）、うどんまるごと循環プロジェクト（香川）と合わせて 13 件の登録数となった。四国は民間企業や教育委員会など、多様な主体からの登録があり、拠点連携の可能性について注目されている。

徳島（4）	（株）ハレルヤ、（一社）そらの郷、パンゲアフィールド、（株）井上組
香川（2）	高松ユネスコ協会、うどんまるごと循環プロジェクト
愛媛（4）	新居浜市教育委員会、IKEUCHIORGANIC（株）、（株）平野 平野薬局、 （特活）えひめグローバルネットワーク
高知（3）	（株）土佐山田ショッピングセンター、室戸ジオパーク推進協議会、（株）相愛

- 教育機関との連携

地域 ESD 拠点を含む教育機関等と以下のような連携を行うことで、関係性を深めることができた。

	連携・協力関係先	連携内容	催事名等	開催日・場所
徳島	徳島市加茂名南小学校	SDGs 講演	あどぷとエコスクール講演会	・6 月 16 日（火） ・徳島市加茂名南小学校
	徳島県教育委員会	ESD センターの設立経緯や活動内容説明と、県内学校の取組確認	訪問	・8 月 31 日（月） ・徳島県教育委員会、 Zoom
	徳島県立城北高等学校	探求学習取組内容についてアドバイス	成果発表会	・12 月 17 日（木） ・徳島県立城北高等学校
香川	香川県立善通寺第一高等学校	SDGs の紹介と、日本の達成度について解説	講演	・6 月 2 日（火） ・香川県立善通寺第一高等学校
	香川大学	ESD や SDGs についての説明	講義	・6 月 25 日（木） ・Zoom
	香川県教育委員会	ESD センターの設立経緯や活動内容説明と、県内学校の取組把握	訪問	・8 月 18 日（火） ・香川県教育委員会、 Zoom
	香川県立善通寺第一高等学校	香川県における食品ロスの現状や取組について情報提供	探求学習支援	・9 月 8 日（火） ・香川県立善通寺第一高等学校
	香川県立善通寺第一高等学校	探求学習に対するアドバイスや質疑応答	探求学習中間報告会	・10 月 20 日（火） ・香川県立善通寺第一高等学校
	香川県教育委員会	SDGs や ESD に関する説明と、ESD センター事業概要紹介	第 56 回香川県子ども会指導者・育成者研究大会	・11 月 8 日（日） ・香川県教育会館ミューズホール
	香川県教育委員会	SDGs 目標 5 のジェンダーをテーマにした講演	少年教育指導者セミナー	・12 月 6 日（日） ・香川県青年センター、 Zoom
香川	香川県立三本松高等学校	環境配慮型の学食を取材	訪問	・12 月 9 日（水） ・香川県立三本松高等学校
	香川県立善通寺第一高等学校	香川県高校生探求発表会に向けてのアドバイス	探求学習最終報告会	・2 月 9 日（火） ・香川県立善通寺第一高等学校

愛媛	新居浜市教育委員会	今年度事業についての意見交換	令和 2 年度 ESD 推進事業協議会	・2 月 26 日（金） ・新居浜市市民文化センター
	愛媛県教育委員会	ESD センターの設立経緯や活動内容説明と意見交換	訪問	・8 月 26 日（水） ・愛媛県教育委員会 Zoom
	聖カタリナ大学	他大学との交流促進について情報・意見交換	意見交換	・9 月 25 日（金） ・聖カタリナ大学 Zoom
	愛媛大学付属高等学校	ESD センターの紹介と SDGs に関する講義	講義	・12 月 16 日（水） ・Zoom
高知	高知県教育委員会	ESD センターの設立経緯や活動内容説明と意見交換	訪問	・7 月 20 日（月） ・高知県教育委員会 Zoom
	高知県立高知南高等学校	ESD センター活動紹介と、学校の取組把握	講演	・9 月 2 日（水） ・高知県立高知南高等学校
	高知市立横浜小学校	「海ごみと生きもの」をテーマにした授業	講演	・11 月 2 日（月） ・高知市立横浜小学校
	高知市立昭和小学校	国際理解教育や多文化共生に関する講演と意見交換	講演	・1 月 20 日（水） ・高知市立昭和小学校
四国	徳島県立海部高等学校、徳島県立城北高等学校、香川県立小豆島中央高等学校、愛媛県立上浮穴高等学校、高知県立伊野商業高等学校	主催。各県の高校生の活動発表を通じて交流を図ると共に、SDGs について意見交換。	ユース世代等取組交流会	・8 月 29 日（土） ・Zoom
	徳島県立城北高等学校、香川県立善通寺第一高等学校、愛媛大学付属高等学校、高知県立山田高等学校	主催。各県の高校生の SDGs 活動発表や地域 ESD 拠点を交えた実践事例の紹介や意見交換。	四国 ESD フォーラム 2021	・ 3 月 14 日（日） ・愛媛大学教育学部 Zoom

(3)ESD 活動に関する相談・支援窓口

- SDGs や ESD に関係する企画展開の相談やコミュニティセンターでの取組、海外との交流や講師派遣など、昨年度に引き続き多様な分野での事業展開や推進に関する相談があり、取組アイデアや連携先の紹介等を通じて支援を行った。また、教員や組織の研修における ESD、SDGs の取り入れ方や、ESD 関連イベントの広報依頼など広く ESD 活動に関する相談・支援窓口としての機能を果たし、必要に応じて適切な情報提供を行った。

- 相談対応事例:
  - レジ袋有料化に向けて、対策に困っているという相談があったため、紙袋ボックス設置などの提案を行い、PR するためのポップを作成。HP にも掲載して幅広く広報した。

  - 高校より、SDGs に関した授業において、生徒が自ら興味を持って意欲を出してもらう手法を教えてほしいという相談を受け、探求学習におけるワークシートの内容など、授業の方向性についてアドバイスした。
  - 衣料品に関するエシカル消費について、消費者教育の一環として推進を図りたいとのことから、情報・意見交換の上、SDGs を推進する企業の意識調査を行い、県内企業とのアポイントメントをサポートした。
  - 授業に活かすことができる消費者教育講座を開いてほしいという相談を受け、講師として ESD 運営委員を紹介し、小学校における SDGs の授業の考え方や身近な教材を活用した講義を行った。
  - 子ども会を運営する人材を育成する講習の企画・実施に協力を得たいとのことから、子ども会として SDGs に貢献する視点を入れることを提案し、講習を行った。
  - 森林公園のリニューアル事業に伴い、体験プログラムについて検討しているので、アドバイスを得たいという相談を受け、ESD の視点を盛り込んだプログラムについて、自然体験を提供する団体と企画提案を行うことにした。
  - 四国外の団体より、地域 ESD 拠点に登録した学校を支援するため、SDGs に取り組む学校を参考までに紹介してほしいという相談を受け、ユース世代等取組交流会で取り組み発表を行った高校を紹介した。
  - 図書館で SDGs をテーマにした書籍の展示を行うことに伴い、資料に関する相談を受け、海ごみの情報が記載されたチラシやパンフレットを提供した。
  - 香川県国際理解教育セミナーで ESD に関する資料を展示してほしいと相談を受け、ESD センターのパンフレットやイベントチラシ、SDGs 冊子の展示・配布を行った。

- 全国ESD活動支援センター(東京)や他の地方センターと連携し、四国にとどまらず日本全国・世界での情報を元に相談・支援に関する窓口対応を行った。

2020年度　講師派遣研修等受入一覧(講師派遣・四国ESDセンター分)

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	対象人数
1	6	2	火	課題探求講演	SDGs	香川県善通寺第一高等学校	香川県善通寺第一高等学校	177
2	6	25	木	香川大学講義	ESDやSDGsに関する身に付けたい能力や態度の紹介	香川大学	香川大学	155
3	7	18	土	ガールスカウト講演会	SDGsの概要や各目標の内容について説明	学校法人のぞみ学園のぞみ幼稚園	(公社)ガールスカウト香川県連盟	30
4	1	25	月	香川県高等学校家庭クラブ連盟第2回代議員会　生徒分科会	SDGsの概要や各目標の内容、高校生の活動事例について説明	サンポート高松	香川県高等学校家庭クラブ連盟	32
5	1	25	月	香川県高等学校家庭クラブ第2回代議員会(クラブ員分科会)	SDGsとユースの取り組み紹介	サンポート高松	香川県高等学校家庭クラブ連盟	35

2020年度　講師派遣研修等受入一覧（委員・四国ESDセンター分）

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	対象人数
1	2	26	金	ESD推進事業協議会	令和2年度ESD推進事業協議会	新居浜市市民文化センター	新居浜市教育委員会	20

① 人材育成

- ユース世代等取組交流会の開催
  開催日：2020 年 8 月 29 日（土）
  場所：Zoom による WEB 会議
  主催：環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、四国 ESD センター

  内容：（株）武田林業代表取締役による講演「はじめの一歩と、アイデアの源泉」の後、四国各県の高校生による環境問題等への取組紹介やワークショップを行った。高校同士や地域 ESD 拠点等の ESD 実践者を交えて意見交換する場を設けたことで、今後の活動意欲増進につなげることができた。後半には、持続可能な地域創造ネットワークより、ユース支援プロジェクトの説明を受け、SDGs アクター資格制度の検討について言及があり、SDGs の課題解決に向けて実践することや自ら仕事を生み出すことの重要性を伝え、今後につながるサポートを行うことができた。

⑤ その他（ESD 活動に関するネットワークの構築とその周知）

- 四国地方の ESD 活動実践者・実践団体等の活動情報の共有をめざし、昨年度に引き続き教育委員会等の ESD 関係者を訪問し、四国 ESD センターについての説明を行った。ESD に関する認知度が上がっており、取組を地域で推進するニーズがあることを確認した。さまざまな資源をつなぐ機能を担う ESD センターに対して、関係者から多くの期待が寄せられ、役割を果たすセンターとして今後も拡充していく必要性があることを認識した。

- 昨年 2 月に西条市立西条図書館で行われた SDGs 展示を見た市民から、同様の展示を今治市でも行ってはどうかとの提案があり、今治市立中央図書館から依頼を受けて実施した。具体的な取組事例の紹介の要望があったため、愛媛県の 4 つの ESD 拠点（うち 2 件が同市の企業）の活動紹介を中心に展示を行った。「森里川海プロジェクト」のコンセプトと四国における取組事例の展示の提供も行い、6 月 14 日まで展示開催した。

- 松山市主催の「平和資料展」開催に伴い、当団体の展示スペースの一角に松山市の SDGs 未来都市採択に関する取組や他団体、JICA 提供資料、松山市立新玉小学校がユネスコスクールであることなどを紹介した資料、ESD センター関連資料を展示し、平和と SDGs について知り、考えてもらうためのきっかけとなるような展示を行った。

- 愛媛県中小企業家同友会における定例会の報告者として登壇し、行政から事業を受託・運営する中で、どのようにして大学院生の新卒採用を行える組織を構築してきたか等について報告を行い、SDGsや ESD の世界的な動きを組織の運営や目標と関連させて、どう人材確保や仕事の獲得につなげていくか、参加者と意見交換を行った。

- ESD-J 総会に出席し、事業報告、事業計画などの説明後、具体的にどのように ESD を推進していくか議論を行った。新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインで講演が聞けるような工夫が提案された。四国からも活動事例や講師候補などの情報が提供できることを伝え、ESD センターの存在をアピールする機会となった。また、理事懇談会では、ESD-J の今年度の活動方針について意見交換を行った。地方 ESD センターとの連携が必要不可欠であることから、情報共有をしながら各地で ESD が推進されるよう連携していくことが再確認された。後日、再度開催された懇談会では、ESD 円卓会議の情報共有等、各理事が参加した会議や資料の共有を行った。ESD 推進のためのネットワークについて、地方 ESD センターや地域 ESD 拠点との連携は不可欠であるとの認識から、今後どのような展開を行うべきかの議論があり、四国 ESD センターとして現在実施している事業の説明や地域 ESD 拠点との連携の状況について紹介を行った。

- ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会に出席した。各地の ESD 支援活動状況の共有をし、ESD 活動推進拠点への対応や協力組織との連携等について意見交換を行った。

- ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020 への協力
開催日：2020 年 12 月 19 日（土）
場所：Zoom による WEB 会議
主催：ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
参加者：約 270 名
内容：ESD for 2030 に向けて、持続可能な社会に期待される人材育成の取組や、ESD を通した授業づくりと地域連携等の基調講演があった。その後の分科会では、「SDGs の取組を社会実装するための ESD」をテーマに（株）平野 平野薬局から話題提供を受け、企業としての ESD に対する取組を紹介し、参加者の関心を集めた。また、ポスターセッションも行われ、四国地域の ESD 拠点や四国 ESD センターの情報発信ができた。

- 四国 ESD フォーラム 2021（日本 ESD 学会 第 2 回 四国地方研究会の開催
開催日：2021 年 3 月 14 日（日）
場所：愛媛大学教育学部、Zoom による WEB 会議
主催：四国 ESD センター、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、日本 ESD 学会、愛大・ESD ラボ、愛媛大学教職大学院
内容：日本 ESD 学会長による「学校教育における ESD & SDGs」をテーマにした基調講演後、四国各県の高校生から SDGs 活動の紹介があった。その後の意見交換では、高校生が作った野菜を、観光業を行う地域 ESD 拠点に卸して、地域を活性化させたい等、コラボの提案もあり、ユース世代の活動意欲の増進や今後の展開につながる場となった。午後からは分科会に分かれ、それぞれのテーマで事例発表や意見交換を行うことで、多様な参加者が交流し、学びあう機会を作ることができた。

1．外務省 NGO 相談員業務

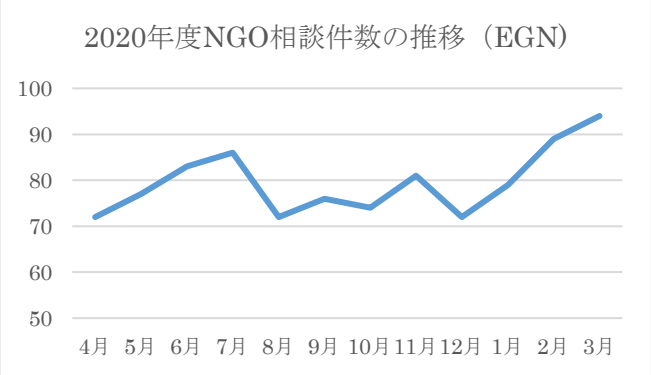
(1)2020 年度の目標

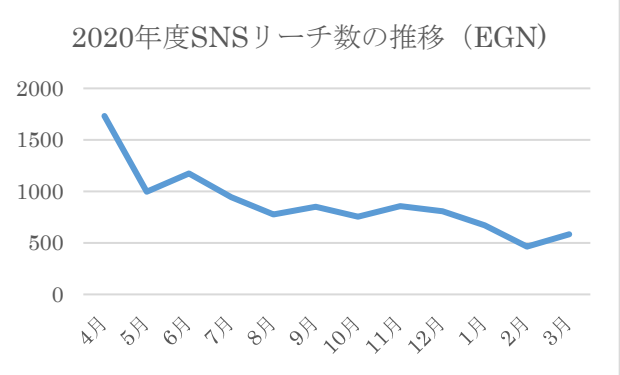
多様な主体との連携を強化しながら、四国地域の開発教育、ESD の普及・促進を進め、地域発の草の根国際協力活動の活力を向上させる。

(2)指標

①相談対応：毎月 80 件を目標として相談対応を行う。
②出張サービス：四国各県 2 回以上実施し、新規開拓を行う。
③広報：ポスター・チラシ、SNS（ホームページ、Facebook）の活用、（ホームページ：4 回/月の更新、Facebook：4 回/月の更新を目標とする。）当団体の名刺やパンフレット等の印刷物に NGO 相談員のロゴマークを使用し、年間約 1,000 名以上に広報する。
④NGO の強化：NGO の情報発信力の強化や、活動資金獲得のための助成金に関する情報提供など、NGO と連携して勉強会を開催し、教材開発やプログラム開発など、活動を次へつなげるためのサポートを行う。

(3)2020 年度実績データ





	実績合計件数	目標件数	達成率
出張サービス	9	9	100%
SNSリーチ	10,612	9,600	111%
相談	955	960	99%

(4)出張サービス実施報告

● 6 月 2 日（火）香川県立善通寺第一高等学校

生徒から次のような感想があげられた。「国際協力を身近に感じることができ、NGO、NPO のイメージが具体的になった。」「香川にも国際協力をしている NGO があるとわかって良かった。」「トビタテ留学 JAPAN で高校生も NGO 支援先を訪問したり、いろいろな体験をして国際協力に関わっていることがわかった。自分もできることを考えたい。」

● 9 月 3 日（木）高知県立高知南高等学校

オンラインで出張サービスを実施するのは、今回が初めてであり、高校の先生との事前打ち合わせや準備を入念に行った。当日は、高校 1 年生 30 人および実習生 3 名、教員 2 名、校長先生に対し、外務省 NGO 相談事業、四国の NGO の活動紹介を行い、国際協力活動を仕事にする、NGO で働くとしたら、現場はどんな感じでどのような意義・やりがいがあるかなどを紹介し、興味・関心を引き出せるよう伝えた。 同時に、SDGs についても触れつつ、高校生ができることを考えていこうという呼びかけを行った。

● 10 月 11 日（日） 国際交流市民ボランティア入門講座

今回の出張サービスでは、一般市民向けに外務省 NGO 相談員制度を紹介し、活用方法を広報するとともに、四国内の NGO を紹介して国際協力活動への興味・関心を高め、ボランティア参加という行動につながるよう情報提供、相談対応を行った。

● 10 月 16 日（金）～10 月 23 日（金）かがわ国際フェスタ 2020

展示会場で他の NGO 団体との交流、情報交換ができた。
展示資料を興味深く見る人、資料を読む人、持ち帰る人も多く、来場者に国際協力や ODA について広く周知することができた。
動画配信により、場所を問わず外務省 NGO 相談員について周知することができた。

● 10 月 21 日（水）三好市立三野中学校

今回の出張サービスでは、中学生が事前にさまざまな国際協力活動や水をめぐる問題についてしっかり勉強していたこともあり、具体的な課題解決につなげていくためにどうしたら良いかを考えることができるよう、実践者である四国の NGO を紹介した。特にザンビアで水・農業・健康・教育分野で支援を行っている NGO と当団体のモザンビークにおける水・教育・雇用創出など具体的に紹介した。

● 10 月 14 日（水）徳島県立池田高等学校辻校

池田高校では、SDGs について基本的な学びと国際協力活動のつながりを示し、SDGs、国際協力活動に関する興味・関心を引き出すことができるよう説明した。
四国にある NGO を紹介したことで、SDGs に関わる実践者が身近な存在であることを伝え、自分に何ができるかを考える機会とした。

● 11 月 11 日（水）愛媛県立西条高等学校

世界各国で実践されている国際協力の現状を紹介し、高校生が今できる国際貢献について考える機会とした。また、今後、国際関係の進路選択を考える生徒にとって「NGO で働くこと」がひとつの選択肢となるよう、外務省の「国際協力と NGO」冊子や小冊子「四国・国際協力団体と ODA」を活用し、紹介した。

● 11 月 7 日（土）高知県立小津高等学校&PTA国際委員会

四国の NGO、SDGs、外務省NGO相談員について紹介し、具体的な国際協力事例として高知県内の取り組みで、特に高校生も関わっているラオス支援などを紹介したことで、実践者が身近な存在であることを伝え、自分に何ができるかを考える機会とした。

● 2021 年 1 月 18 日（月）鬼北町立近永小学校

今回の出張サービスは、対面で行うことができた。小学校 4 年生向けの内容では、国際協力×福祉の内容だったため、フィリピンで障がい者支援を行う NGO の紹介も含めて行い、途中、NGO とオンラインでつなぐなど工夫した。5 年生には、モザンビークの事例紹介も含め、SDGs に取り組んでいる NGO 活動について紹介した。いずれの授業でもグローバルローカルかるたを活用し、国際協力活動に親近感を持ってもらえるよう工夫した。

3. 講師派遣および持続可能な開発のための教育（ESD）普及・促進

2020年度　MIC-ESDコーディネーター講師派遣

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	7	1	水	雄郡小学校6年1組	総合的な学習の時間「私にとって英和の色は」	雄郡小学校	雄郡小学校	6年1組	34
2	7	1	木	雄郡小学校6年2組	総合的な学習の時間「私にとって英和の色は」	雄郡小学校	雄郡小学校	6年2組	35
3	8	19	水	新玉小学校	3, 4, 5, 6年生授業プラン打ち合わせ、ユネスコスクール10周年記念打ち合わせ	新玉小学校	新玉小学校	加藤先生	1
4	9	9	水	北条小学校	モザンビークと出会おう	北条小学校	北条小学校	6年生	62
5	9	29	火	新玉小学校	モザンビークと出会おう	新玉小学校	新玉小学校	3年生	88
6	9	29	火	新玉小学校	モザンビークと仲良くなろう	新玉小学校	新玉小学校	4年生	89
7	10	1	木	味生第二小学校	フィリピンの現状について	味生第二小学校	味生第二小学校	5年生	
8	11	13	金	道後中学校　打合せ	11/27道後中学校2年生175名向けキャリア教育について打ち合わせ	道後中学校（オンライン）	愛媛県中小企業家同友会	愛媛県中小企業家同友会、木村先生、フェローシステム馬場、竹内	6
9	12	22	火	新玉小学校6年生	くらし、世界の格差、社会、貿易、SDGs冊子　自分らしく生きる	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校6年生	76
10	12	22	火	新玉小学校5年生	くらし、世界の格差、社会、貿易、SDGs冊子　自分らしく生きる	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校5年生	91
11	1	15	金	新玉小学校	ユネスコデイ行事+貿易ゲームとSDGs冊子活用	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校5年生	91
12	2	4	木	雄郡小学校	平和・国際・キャリア教育	雄郡小学校	雄郡小学校	6年1組	34
13	2	4	木	雄郡小学校	平和・国際・キャリア教育	雄郡小学校	雄郡小学校	6年2組	35
14	2	13	土	清水小学校	打ち合わせ	清水小学校	清水小学校	宇野先生、木村先生	2
15	2	18	木	清水小学校	モザンビークとSDGs	清水小学校（オンライン）	清水小学校	6年生1～3組	85
16	3	9	火	味生第二小学校	フィリピンのラクソン小学校とオンライン交流	味生第二小学校（オンライン）	味生第二小学校	5年生	

2020年度　クレア関連活動（松山市）

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催
1	7	24	金	平和の資料展（～7/30まで）	武器アート展示、SDGs展示	松山市コミュニティセンター	松山市
2	9	30	水	意見交換　クレア事業	MIC-ESDコーディネーター派遣事業について意見交換	MIC	松山市
3	10	24	土	ESDラボ	藤原先生、松山市・青野さん発表	松山市教育研修センター	愛大ESDラボ
4	10	24～25	土・日	松山市SDGsフェス	活動紹介、SDGs紹介	アイテム愛媛	松山市
5	11	17	火	アンケート準備	松山市SDGs冊子　アンケート作成・コピー準備	－	
6	11	18	水	新玉小学校	松山市SDGs冊子　アンケート依頼	新玉小学校	
7	1	7	木	松山市	クレア発表会打ち合わせ	オンライン	
8	1	13	水	松山市	クレア発表会打ち合わせ	オンライン	
9	1	14	木	新玉小学校・愛媛大学学生打ち合わせ	1月15日の打ち合わせ	オンライン	
10	3	14	日	四国ESDフォーラム	分科会にて発表・ワークショップ	愛媛大学	愛大ESDラボ 四国ESDセンター

2020年度　クレア（セミナー）

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	1	28	木	令和2年度地域国際化ステップアップセミナー（クレアセミナー）	コロナ時代の国際協力と地域づくり	オンライン	クレア（一般財団法人自治体国際化協会）	一般	230

2020年度　委員会

【国際協力・国際理解推進実行委員会】

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象
1	4	28	火	国際協力・国際理解推進実行委員会	第1回会議（事業計画、予算書）	書面決議		
2	5	25	月	国際協力・国際理解推進実行委員会	学研からの提案、今後の方針、スケジュール	オンライン		
3	6	26	金	国際協力・国際理解推進実行委員会	第2回会議（学研と冊子概要、スケジュール）	コムズ	松山市	国際協力・国際理解推進実行委員会
4	7	28	火	国際協力・国際理解推進実行委員会	構成案、執筆担当決め	オンライン	松山市	国際協力・国際理解推進実行委員会
5	9	2	水	国際協力・国際理解推進実行委員会	校正	教育研修センター	松山市	
6	9	25	金	国際協力・国際理解推進実行委員会	校正	オンライン	松山市	
7	11	14	土	打ち合わせ	松山市SDGs冊子について	松山市教育研修センター		
8	1	26	火	国際協力・国際理解推進実行委員会	手引き	オンライン		
9	3	23	火	国際協力・国際理解推進実行委員会	第3回会議	松山市役所	松山市	国際協力・国際理解推進実行委員会

【愛媛県森林整備課】

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象
10	9	23	水	えひめ森林公園	委員会	愛媛県庁	愛媛県 森林整備課	

【ESD推進協議会】

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象
11	2	26	日	ESD推進協議会	協議会	新居浜市	新居浜市 教育委員会	

2020年度　講師派遣

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	8	27	木	愛媛大学社会教育主事講習	[社会教育経営論]NPOの経営戦略	愛媛大学	愛媛大学	主事	45
2	9	8	火	新居浜生涯学習大学	SDGsって何だろう	生涯学習センター研修室	新居浜生涯学習大学	一般	20
3	9	14	月	新居浜生涯学習大学	身近な国際交流	生涯学習センター研修室	新居浜生涯学習大学		20
4	10	13	火	内子町五十崎自治センター	あけぼの人権学習会「多文化共生社会づくり」	内子町五十崎自治センター	内子町五十崎自治センター	一般市民	30
5	11	8	日	第56回香川県子ども会指導者・育成者研究大会記念	「SDGsと多文化共生」	香川県教育館ミューズホール	一般社団法人香川県子ども会育成連絡協議会（香川県教育委員会生涯学習・文化財課）	子ども会の指導者・育成者・世話人、学校関係者　等	
6	12	6	日	令和2年度少年教育指導者セミナー	「SDGをジェンダーの視点から考えよう！」について	香川県青年セミナー3F大会議室	香川県教育委員会	子ども会等の指導者、少年教育関係者	40
7	12	16	水	愛媛大学附属高等学校	SDGs伊豫学	愛媛大学附属高等学校	愛媛大学附属高等学校	愛媛大学附属高校1年生	120
8	1	26	火	愛光中学校	人権	オンライン	愛光学園	2年生	214
9	1	30	土	アースキャンプ			JANIC		
10	2	2	火	愛光中学校	人権	オンライン		3年生	192

その他

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	11	2	月	Clothes　Loss・オンライン講演	講演	オンライン	消費者教育研究会		
2	12	27	日	消費者教育			消費者教育研究会		
3	11	5	木	吉田中学校	SDGs図書寄付		清水小図書支援員		

2020年度　平和の語り部

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	9	14	月	北久米小学校	平和の語り部・オンライン	松山市教育研修センター	松山市	6年生	113
				日浦小学校					8
				姫山小学校					84

2020年度　セミナー

No.	月	日	曜日	名称	内容	場所	主催	参加者・対象	対象人数
1	4	5	日	「なつかしい未来をつくるオンラインセミナー」	ブータン労組	道の駅	ブータン労組	在住ブータン人他	20

【教材紹介】

1．小学生向け SDGs 学習活動支援

松山市の国際協力・国際理解推進実行委員会の活動を通して小学生向けの副読本「みんなで始めよう！未来のための SDGs～まつやまから持続可能な世界へ～」を作成し、市内の複数の小学校で出前授業を行った。

（左：2020 年 10 月発行冊子の表紙/右：アフリカモザンビークでの活動紹介ページ）

冊子データ：
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/SDGs/matsu-torikumi/SDGs_book.html
国際協力・国際理解推進事業：
https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/SDGs/matsu-torikumi/SDGs2019.htm

2．生徒の感想

実施した授業で、SDGs の紹介やモザンビークでの活動紹介を行い、授業を受けた生徒からは、下記のような感想を得た（一部紹介）。

① SDGs をみんなで（世界）達成して、たくさんの人の笑顔があふれる世界にしたいと思いました。もっと国際協力について学び、SDGs のことをもっと知ってもらうために、広げる側の人間になりたいと思いました。（小学 5 年生）
② SDGs のことをとてもくわしく知れて、私も、で来ることを見つけて行動してみたいです。また、モ

ザンビークを応援したいと思いました。（小学５年生）

③ 世界ではさまざまな問題がありますが、特にモザンビークは、様々問題がありそれを改善していく中で、その村の人たち全員が力を合わせ公民館をつくっていてすごいなと思いました。もっと豊かになってふつうの生活ができたらいいなと思いました。（小学５年生）

④ 私達は見たり聞いたりするだけではダメで、自ら実行していかないといけないのでさっしに書いてあることをさっそく実行していこうと思いました。そして、１回だけでもいいので、モザンビークに行ってみたいと感じました。（小学６年生）

⑤ モリンガの木のような水をきれいにしたり、きがをゼロにしたりできる植物があるのか調べてみたいと思いました。（小学６年生）

3. 愛媛県内の中高生向け就活情報サービス冊子での活動紹介

印刷会社の㈱ハラプレックスが年３回発行する「ココロエえひめ」30 号のコラムページで、「ESD for SDGs・・・愛媛とモザンビークをつなぐもの」というテーマでモザンビークでの活動紹介を行った。

（左：2020 年発行冊子の表紙/右：モザンビークでの活動紹介ページ）

4. 教材・冊子作成協力

開隆堂出版㈱の令和３年度中学校英語教科書の作成にあたり、モザンビークでの活動に関する紹介を行った他、JICA が発行する中学生向け副教材「アフリカとつくる未来」におけるモザンビーク紹介紙面への写真提供や記事作成への協力を行った。

4. 減災社会づくり･多文化共生事業(HS)

１）愛媛県ホームステイ事業

本業務は、当初、令和 3 年 1 月 24 日（日）に新居浜市で、3 月 7 日（日）に宇和島市で「日帰りホームビジット」として実施するよう企画していたが､新型コロナウイルス感染症拡大防止のため､愛媛県と相談の上、ホームビジットを中止し､各市で国際交流イベントを開催するという形で多文化共生に資するプログラムへと契約変更して実施した。

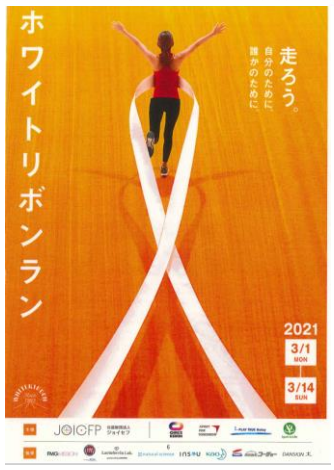
宇和島市での開催については、イベントの開催時間を縮めつつも、ホワイトリボンランと EARTH CAMP トークの 2 本立てプログラムを実施できるよう準備を進めることができ、宇和島市教育委員会や宇和島市 NPO センターの協賛・協力を得て、市内の中学生の参加や商店街の方々とのコラボも実現させることができた。

新居浜市で開催を予定していた 1 月 24 日の交流会については、協力機関の関係者と相談の上、同市内の留学生と中学生のリアルな交流の機会を延期し、3 月 9 日（火）にオンライン交流を行い、松山市内の留学生と外国人教員、伊予市在住ブータン人、モザンビーク在住で日本・愛媛に留学予定だったが来られなかったモザンビーク人高校生との交流授業を行った。

コロナ禍におけるイベント開催は、変更に次ぐ変更が続き、調整業務はかなり膨大なものとなったが、宇和島市、新居浜市の両イベントを実施するためにさまざまな関係機関との意見交換と工夫を重ねたこと、また、コロナ禍において多くのイベントが中止されているなかでの実施となったこともあり､参加者からは好評で満足度の高いアンケート結果を得ることができた。そして、本事業を通じて、地域の実情や課題を在住外国人と共有し、お互いの国・地域文化の良さを再確認することができる多文化共生社会の推進を図ることができたと考える。

（１） 宇和島市実施内容

企画名：世界とつながるうわじま White Ribbon Run & EARTH CAMP トーク
日　時：2021 年 3 月 7 日(日)12：30-16：30
場　所：きさいや広場 & 宇和島市立中央公民館
参加人数：32 名（内ネパール人 1 名、ブータン人 4 名）
感　想：抜粋
①ウォーキングがあったので、少し関わりにくかった外国人とも仲良くすごすことができました。
②ホワイトリボンランで各地をまわるのが楽しかった。
③色々な会話をすることができた。
④外国人と会話できたこと。クイズが面白かったこと。
⑤初めて会った方と話したり、行動することや、各店であるクイズに答えるが楽しかった。
⑥普段外国人の方と関わる機会が少なく会話することなどないですが、今回のイベントで外国人の方と楽しい時間をすごせました。
⑦外国の人も入ったホワイトリボンランが特に楽しかったです！初めてのメンバーだったけど、仲良くできてよかったです。



▸参加者記念撮影、当日の様子

（２） 新居浜市市実施内容

企画名：世界とつながるにいはま・国際交流トーク
日　時：2021 年 3 月 9 日(火)13：30-15：20
場　所：新居浜市立別子中学校、EGN 会議室、モザンビーク共和国
参加人数：17 名（内①別子中学校：生徒 10 名、教員 2 名、②EGN 会場：ブータン人 1 名、モザンビーク人 1 名、アメリカ人 1 名、コーディネーター1 名、③モザンビーク共和国：モザンビーク人高校生 1 名）
感　想：新居浜市立別子中学校生徒とのオンライン交流企画として実施できたことで、中学生にとって国際感覚を磨く好機となり、留学やホームステイに関する理解推進に寄与することができた。

２）2020 年度 NGO 等提案型プログラム

JICA への企画提案事業として、「多文化共生型の減災社会づくりネットワーク形成と教材開発」をテーマとした企画が採択となり、協議を重ね 2021 年度からの本格実施に向けた準備を行った。

この企画の背景には、国内外の発災時の自助・共助の必要性が叫ばれる中、災害の多い四国では在住外国人の増加、少子高齢化により、地域防災担い手の減少、高齢者、外国人といった災害弱者の増加が懸念されている。国内外を問わず、実際の発災時には NGO 等が緊急支援に参加することが想定されるが、実際の現場ではコミュニケーション、調整不足等による混乱が発生し、十分な支援活動ができないといった課題が確認されている。

これらの課題を解決するため、NGO や防災に関与するステークホルダーを対象に、災害発生時に活躍できる人材育成とステークホルダー間のネットワーク強化を進める。あわせて、地域の災害弱者となっている在住外国人を対象にワークショップを行い、地域防災だけでなく、母国への帰国後にも防災の担い手となるよう自助能力を強化するとともに、地域との共生にも寄与することを目指して取り組みを進める事業となっている。

なお、同企画は、2020 年 2 月に発足したローカル SDGs 四国（LS 四国）の分科会としても位置付け、四国内における多様な主体とのネットワーク形成による課題解決を目指す事業として進めることとなる。

▸2021 年 2 月 17 日のフォーラムでの発表資料

5. 西日本豪雨災害･愛媛県内での支援活動、三者連携推進業務

2018 年 7 月に発生した西日本豪雨災害支援として、えひめリソースセンターとともに「宇和島 NPO センター」 の運営を支援してきた。えひめリソースセンターの事務局サポートを行いつつ、具体的には「牛鬼会議」「えひめ会議」など情報共有会議への参加を通じて支援活動を行い、南予地域の学校と宇和島 NPO センターの連携サポート等を行った。

6. 協働オフィス運営と中間支援機能強化について

2020 年度は、当団体が運営する協働オフィス（松山市東一万町 2 第 3 森ビル 1F）を、特定非営利活動法人えひめ 311 および特定非営利活動法人えひめリソースセンターとともに活用した。

日本・モザンビーク友好協会については、事務局運営を行い、オリンピック・パラリンピック選手団との交流活動の側方支援を行った。機能的統合を行った四国 NGO ネットワークについては、事務局を担いつつ、ホームページ上の情報を移管し管理を行った。

Ⅳ．管理運営等

1．組織運営

(1)事務局運営

本部・愛媛県松山市および香川県、徳島県、高知県の四国 EPO 事業実施のため、常勤および非常勤の人材を新規ならびに継続雇用し事務局の体制を整えた。

(2)役員体制

2020 年度は以下の役員体制とし、役員間のコミュニケーションについては、理事メールや WEB 会議を活用しながら意見交換を図り、理事会を年に 3 回開催した。

役職名	氏　名	所属他
代表理事	竹　内　よし子	えひめグローバルネットワーク　代表理事
理　　事	常　川　真由美	えひめグローバルネットワーク　常任理事、四国EPO所長
〃	亀　山　公実子	えひめグローバルネットワーク　常任理事、四国EPO事務局長
〃	上　田　　稔	学校法人聖カタリナ学園　財務理事　法人事務局長
〃	小　松　柊　成	新居浜グローバルネットワーク　代表
〃	堀　田　　学	社会保険労務士
〃	森　　源二郎	四国糧油株式会社　代表取締役社長
監　　事	鈴　木　靖　彦	JAえひめ中央　総合企画室リスク管理課長
顧　　問	薦　田　信　夫	弁護士

(3)広報

- 会員メルマガ、HP、Facebook を活用し、イベント等の情報発信を行った。
- 各種メディアの取材に応じ、新聞･テレビ･ラジオ等において EGN の諸活動、他の市民活動の広報を積極的に行い、NPO/NGO 活動への理解や参加促進を図った。

2. 決算報告

活動計算書

特定非営利活動法人　えひめグローバルネットワーク　（単位：円）

科目	2019決算	2020予算	2020決算	2020予算/決算比	備考
Ⅰ　経常収益					
1. 受取会費					
正会員会費	180,000	350,000	340,000	97%	
協力会員会費	111,000	350,000	126,000	36%	
2. 受取寄付金	1,423,512	1,000,000	739,486	74%	
3. 受取助成金	6,191,000	2,000,000	2,000,000	100%	
4. 事業収益					
事業収益	3,338,666	1,500,000	904,618	60%	
受託事業収益	45,974,022	41,359,185	42,249,789	102%	
5. その他収益					
受取利息	6,407	5,000	8,482	170%	
雑収益	25,201				
修繕引当金取崩額	80,000				
経常収益計	57,329,808	46,564,185	46,368,375	99.6%	
Ⅱ　経常費用					
1. 事業費					
(1)人件費					
給与	25,503,263	23,471,960	24,771,013	106%	
法定福利費	2,539,251	2,440,990	2,611,054	107%	
福利厚生費	30,642	70,000	21,390	31%	
人件費計	28,073,156	25,982,950	27,403,457	105%	
(2)その他経費					
売上原価	444,665	300,000	60,018	20%	増産プロジェクト推進のため
業務委託費	1,760,000	730,000	200,000	27%	日モ友好協会との連携含む
諸謝金	3,932,787	822,000	1,858,789	226%	
外注費	684,600	702,000	1,721,000	245%	ウェブ会議補助事業者委託含む
印刷製本費	533,455	600,000	688,590	115%	
会議費	62,293		24,818	-	
旅費交通費	8,178,125	4,357,673	2,183,567	50%	
車両費	717,305	200,000			
通信運搬費	1,774,935	1,913,910	2,245,354	117%	
消耗品費	1,103,117	618,224	1,364,729	221%	
修繕費	1,238,422	1,000,000	610,593	61%	
水道光熱費	75,355	70,506	146,164	207%	
地代家賃	394,653		33,993	-	
賃借料	1,790,040	1,185,000	703,894	59%	
減価償却費	147,571		147,571	-	
保険料	156,050	50,000	26,280	53%	
諸会費	128,022		204,875	-	
新聞図書費	236,929	216,000	226,543	105%	
租税公課	2,049,350	3,855,379	3,008,800	78%	消費税額含む
研修費	38,474			-	
支払手数料	88,417	30,000	120,066	400%	
支払寄付金	236,320	54,924	182,396	332%	
支払利息	3,454	240,000	257,875	107%	
その他経費計	25,774,339	16,948,616	16,015,915	94%	
事業費計	53,847,495	42,931,566	43,419,372	101%	
2. 管理費					
(1)人件費					
給与	932,165	907,800	365,717	40%	
法定福利費	424,895	145,430		-	
人件費計	1,357,060	1,053,230	365,717	35%	
(2)その他経費					
諸謝金	333,223	350,000		-	
外注費				-	
印刷製本費	95,930	90,000	30,272	34%	
会議費	278	5,000	7,304	146%	
旅費交通費	511,709	120,000	15,589	13%	
車両費			243,581	-	モザン車両の費用
通信運搬費	267,395	120,000	107,119	89%	
消耗品費	57,199	60,000	40,000	67%	
修繕費	89,900	100,000	74,584	75%	
水道光熱費	171,577	180,000		0%	
地代家賃	85,800		6,652	-	
賃借料	89,683	90,000	114,035	127%	
減価償却費	157,683	160,000	44,970	28%	
保険料	50,590	50,000	15,475	31%	
諸会費	23,350	25,000	38,693	155%	事業費で計上
新聞図書費				-	
租税公課	51,677	50,000	2,493	5%	
支払手数料	8,686	10,000			
支払利息		240,000			
その他経費計	1,994,680	1,650,000	740,767	45%	
管理費計	3,351,740	2,703,230	1,106,484	41%	
経常費用計	57,199,235	45,634,796	44,525,856	98%	
当期経常増加額	130,573	929,389	1,842,519	198%	
Ⅲ. 経常外収益					
修繕引当金戻入益			80,000		
Ⅳ. 経常外費用					
修繕引当金繰入額			600,000		
税引前当期正味財産増加額	130,573	929,389	1,322,519	142%	
法人税、住民税及び事業税	1,439,900	60,000	52,200	87%	
当期正味財産増加額	△ 1,309,327	869,389	1,270,319	146%	
前期繰越正味財産額	14,396,836	13,087,509	13,087,509	100%	
次期繰越正味財産額	13,087,509	13,956,898	14,357,828	103%	

※その他の事業は実施していません。

活動計算書
2020年4月1日～2021年3月31日
特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク （単位：円）

科目	金額		
Ⅰ 経常収益			
1．受取会費			
正会員会費	340,000		
協力会員会費	126,000	466,000	
2．受取寄付金		739,486	
3．受取助成金		2,000,000	
4．事業収益			
事業収益	904,618		
受託事業収益	42,249,789	43,154,407	
5．その他収益			
受取利息		8,482	
経常収益計			46,368,375
Ⅱ 経常費用			
1．事業費			
(1)人件費			
給与	24,771,013		
法定福利費	2,611,054		
福利厚生費	21,390		
人件費計	27,403,457		
(2)その他経費			
売上原価	60,018		
業務委託費	200,000		
諸謝金	1,858,789		
外注費	1,721,000		
印刷製本費	688,590		
会議費	24,818		
旅費交通費	2,183,567		
通信運搬費	2,245,354		
消耗品費	1,364,729		
修繕費	610,593		
水道光熱費	146,164		
地代家賃	33,993		
賃借料	703,894		
減価償却費	147,571		
保険料	26,280		
諸会費	204,875		
新聞図書費	226,543		
租税公課	3,008,800		
支払手数料	120,066		
支払寄付金	182,396		
支払利息	257,875		
その他経費計	16,015,915		
事業費計		43,419,372	
2．管理費			
(1)人件費			
給与	365,717		
人件費計	365,717		
(2)その他経費			
印刷製本費	30,272		
会議費	7,304		
旅費交通費	15,589		
通信運搬費	243,581		
消耗品費	107,119		
修繕費	40,000		
水道光熱費	74,584		
賃借料	6,652		
減価償却費	114,035		
保険料	44,970		
諸会費	15,475		
租税公課	38,693		
支払手数料	2,493		
その他経費計	740,767		
管理費計		1,106,484	
経常費用計			44,525,856
当期経常増加額			1,842,519
Ⅲ．経常外収益			
修繕引当金戻入益			80,000
Ⅳ．経常外費用			
修繕引当金繰入額			600,000
税引前当期正味財産増加額			1,322,519
法人税、住民税及び事業税			52,200
当期正味財産増加額			1,270,319
前期繰越正味財産額			13,087,509
次期繰越正味財産額			14,357,828

※その他の事業は実施していません。

貸借対照表

2021年3月31日

特定非営利活動法人　えひめグローバルネットワーク　（単位：円）

科目			
Ⅰ　資産の部			
1.流動資産			
現金	491,017		
普通預金	9,343,253		
未収金	7,644,247		
販売用商品	647,472		
流動資産計		18,125,989	
2.固定資産			
土地	8,400,000		
建物	5,410,945		
建物付属設備	352,814		
工具器具備品	51,061		
固定資産計		14,214,820	
資産合計			32,340,809
Ⅱ　負債の部			
1.流動負債			
未払法人税等	52,200		
未払消費税等	1,954,100		
未払金	3,032,277		
前受金	370,000		
短期借入金	4,000,000		
預り金	229,404		
流動負債計		9,637,981	
2.固定負債			
長期借入金	7,305,000		
修繕引当金	1,040,000		
固定負債計		8,345,000	
負債合計			17,982,981
Ⅲ　正味財産の部			
前期繰越正味財産		13,087,509	
当期正味財産増加額		1,270,319	
正味財産合計			14,357,828
負債及び正味財産合計			32,340,809

※その他の事業は実施していません。

財産目録
2021年3月31日

特定非営利活動法人　えひめグローバルネットワーク　（単位：円）

科目	金額			
Ⅰ　資産の部				
1.流動資産				
現金		491,017		
普通預金				
伊予銀行/緑台支店①	3,046,470			
伊予銀行/緑台支店②	75,001			
愛媛銀行/道後支店①	3,079,879			
愛媛銀行/道後支店②	31,229			
愛媛信用金庫/本店営業部①	2,084,677			
愛媛信用金庫/本店営業部②	224,228			
百十四銀行/松山支店	823			
四国労働金庫/松山支店	539,799			
ゆうちょ銀行/六一八支店	31,348			
ゆうちょ銀行/一六九支店①	210,285			
ゆうちょ銀行/一六九支店②	19,514	9,343,253		
未収金				
環境省中国四国地方環境事務所	6,690,468			
外務省	566,269			
愛媛県国際交流課	254,710			
公益財団法人松山国際交流協会	132,800	7,644,247		
販売用商品		647,472		
流動資産計			18,125,989	
2.固定資産				
土地		8,400,000		
建物				
事務所及びカフェ	6			
モザンビーク公民館	5,410,939	5,410,945		
建物付属設備		352,814		
工具器具備品				
事務所事務機器等	4			
カメラ	1			
パソコン	51,056	51,061		
固定資産計			14,214,820	
資産合計				32,340,809
Ⅱ　負債の部				
1.流動負債				
未払法人税等		52,200		
未払消費税等		1,954,100		
未払金				
職員給料	2,352,255			
社会保険料	455,005			
事務所諸経費	92,795			
モザンビーク寄付金	132,222	3,032,277		
前受金		370,000		
短期借入金				
愛媛銀行/道後支店		4,000,000		
預り金				
社会保険料	208,215			
源泉所得税	△ 66,845			
SNN預り金	88,034	229,404		
流動負債計			9,637,981	
2.固定負債				
長期借入金				
愛媛銀行/道後支店	3,765,000			
愛媛信用金庫/本店営業部	2,100,000			
日本政策金融公庫/松山支店	1,440,000	7,305,000		
修繕引当金		1,040,000		
固定負債計			8,345,000	
負債合計				17,982,981
Ⅲ　正味財産の部				
前期繰越正味財産			13,087,509	
当期正味財産増加額			1,270,319	
正味財産合計				14,357,828
負債及び正味財産合計				32,340,809

※その他の事業は実施していません。

計算書類の注記

1．重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日　2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

（1）棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。

（2）固定資産の減価償却の方法

有形固定資産　定率法を採用しています。
但し、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び
平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については、
定額法を採用しています。

無形固定資産　定額法を採用しています。

（3）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み経理方法によっています。

2．事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。　（単位：円）

科目	国際協力事業	販売事業	環境事業	教育・ネットワーク事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ．経常収益							
1．受取会費							
正会員会費					0	340,000	340,000
協力会員会費					0	126,000	126,000
2．受取寄付金	155,402			584,084	739,486		739,486
3．受取助成金	2,000,000				2,000,000		2,000,000
4．事業収益							
事業収益		313,118		591,500	904,618		904,618
受託事業収益			37,863,706	4,386,083	42,249,789		42,249,789
5．その他収益							
受取利息					0	8,482	8,482
経常収益計	2,155,402	313,118	37,863,706	5,561,667	45,893,893	474,482	46,368,375
Ⅱ．経常費用							
（1）人件費							
給与	656,309		22,284,988	1,829,716	24,771,013	365,717	25,136,730
法定福利費			2,303,270	307,784	2,611,054		2,611,054
福利厚生費			16,890	4,500	21,390		21,390
人件費計	656,309	0	24,605,148	2,142,000	27,403,457	365,717	27,769,174
（2）その他経費							
売上原価		60,018			60,018		60,018
業務委託費			200,000		200,000		200,000
諸謝金	230,639		1,359,600	268,550	1,858,789		1,858,789
外注費			587,600	1,133,400	1,721,000		1,721,000
印刷製本費			655,225	33,365	688,590	30,272	718,862
会議費	5,788		6,430	12,600	24,818	7,304	32,122
旅費交通費	192,747		1,885,570	105,250	2,183,567	15,589	2,199,156
通信運搬費	131,770	6,668	1,944,110	162,806	2,245,354	243,581	2,488,935
消耗品費	217,258	17,875	1,053,162	76,434	1,364,729	107,119	1,471,848
修繕費	570,593			40,000	610,593	40,000	650,593
水道光熱費			79,332	66,832	146,164	74,584	220,748
地代家賃			33,993		33,993		33,993
賃借料			700,174	3,720	703,894	6,652	710,546
減価償却費	147,571				147,571	114,035	261,606
保険料		5,000	4,850	16,430	26,280	44,970	71,250
諸会費	500		88,375	116,000	204,875	15,475	220,350
新聞図書費			226,543		226,543		226,543
租税公課		21,457	2,646,237	341,106	3,008,800	38,693	3,047,493
支払手数料	87,221	1,173	23,610	8,062	120,066	2,493	122,559
支払寄付金	182,396				182,396		182,396
支払利息			257,875		257,875		257,875
その他経費計	1,766,483	112,191	11,752,686	2,384,555	16,015,915	740,767	16,756,682
経常費用計	2,422,792	112,191	36,357,834	4,526,555	43,419,372	1,106,484	44,525,856
当期経常増減額	△ 267,390	200,927	1,505,872	1,035,112	2,474,521	△ 632,002	1,842,519

3．固定資産の増減内訳　（単位：円）

科目	期首取得価額	増加	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
土地	8,400,000	0	0	8,400,000	0	8,400,000
建物	6,565,842	0	0	6,565,842	1,154,897	5,410,945
建物附属設備	869,203	0	0	869,203	516,389	352,814
工具器具備品	807,608		0	807,608	756,547	51,061
合計	16,642,653	0	0	16,642,653	2,427,833	14,214,820

4．借入金の増減内訳　（単位：円）

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金				
愛媛銀行　道後支店	6,000,000	4,000,000	6,000,000	4,000,000
理事	491,676	0	491,676	0
長期借入金				
愛媛銀行　道後支店	4,425,000	0	660,000	3,765,000
愛媛信用金庫　本店営業部	2,700,000	0	600,000	2,100,000
日本政策金融公庫　松山支店	0	2,000,000	560,000	1,440,000
合計	13,616,676	6,000,000	8,311,676	11,305,000

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

2020年度　事業別損益計算書

（自 2020年4月1日　至 2021年3月31日）

科目	国際協力				販売	環境			教育・ネットワーク						管理業務	合計
	ﾓｻﾞﾝﾋﾞｰｸ公民館	ﾓｻﾞﾝﾋﾞｰｸ共通	ﾓｻﾞﾝﾋﾞｰｸ災害	宗像協会	販売	四国EPO	日本NPOセンターGreenGift	地球環境助成金説明	講師派遣研修受入	NGO相談員	協働ｵﾌｨｽ	県ﾎｰﾑｽﾃｲ	四国ESDセンター	ESDﾈｯﾄﾜｰｸ		
Ⅰ．経常収益																
1．受取会費																
正会員会費															340,000	340,000
協力会員会費															126,000	126,000
2．受取寄付金		155,402							426,934					157,150		739,486
3．受取助成金				2,000,000												2,000,000
4．事業収益																
事業収益					313,118				591,500							904,618
受託事業収益						36,932,000	380,000	551,706		2,931,373		254,710	1,200,000			42,249,789
5．その他収益																
受取利息															8,482	8,482
経常収益計	0	155,402	0	2,000,000	313,118	36,932,000	380,000	551,706	1,018,434	2,931,373	0	254,710	1,200,000	157,150	474,482	46,368,375
Ⅱ．経常費用																
(1)人件費																
給与				656,309		22,015,112	48,750	221,126		1,829,716					365,717	25,136,730
法定福利費						2,303,270				307,784						2,611,054
福利厚生費						16,890							4,500			21,390
人件費計	0	0	0	656,309	0	24,335,272	48,750	221,126	0	2,137,500	0	0	4,500	0	365,717	27,769,174
(2)その他経費																
売上原価					60,018											60,018
業務委託費						200,000										200,000
諸謝金				230,639		1,317,600		42,000	12,450			94,000	162,100			1,858,789
外注費						587,600				323,400			810,000			1,721,000
印刷製本費						578,225		77,000		33,265			100		30,272	718,862
会議費				5,788		6,430							12,600		7,304	32,122
旅費交通費				192,747		1,882,055	3,515		2,770	27,770		38,084	36,626		15,589	2,199,156
通信運搬費		25,300		106,470	6,668	1,925,260		18,850	840	104,426		5,390	52,150		243,581	2,488,935
消耗品費				217,258	17,875	1,053,162			9,600	12,655		43,292	10,887		107,119	1,471,848
修繕費				570,593							40,000				40,000	650,593
水道光熱費						79,332					66,832				74,584	220,748
地代家賃						33,993										33,993
賃借料						700,174						600	3,120		6,652	710,546
減価償却費	147,571														114,035	261,606
保険料					5,000	4,850						16,430			44,970	71,250
諸会費				500		88,375						49,500	66,500		15,475	220,350
新聞図書費						226,543										226,543
租税公課					21,457	2,582,389	26,041	37,807	40,535	200,882		17,455	82,234		38,693	3,047,493
支払手数料			3,000	84,221	1,173	23,610				330	3,960	1,760	2,012		2,493	122,559
支払寄付金			182,396													182,396
支払利息						257,875										257,875
その他経費計	147,571	25,300	185,396	1,408,216	112,191	11,547,473	29,556	175,657	66,195	702,728	110,792	266,511	1,238,329	0	740,767	16,756,682
経常費用計	147,571	25,300	185,396	2,064,525	112,191	35,882,745	78,306	396,783	66,195	2,840,228	110,792	266,511	1,242,829	0	1,106,484	44,525,856
当期経常増減額	△ 147,571	130,102	△ 185,396	△ 64,525	200,927	1,049,255	301,694	154,923	952,239	91,145	△ 110,792	△ 11,801	△ 42,829	157,150	△ 632,002	1,842,519

3. 監査報告

監査報告書

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

代表理事　竹内 よし子 様

2021年 5月22日

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク
監事　鈴木 靖秀

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク定款第7章第49条に基づき、2020年度事業報告書、活動計算書、貸借対照表および財産目録など決算に関する書類を監査し、記帳簿の計算が正確であって記載に誤りがなく、適正に処理していることを証明します。

以上

メ　モ

メ　モ

メ　モ

国連広報センター：http://www.unic.or.jp/